

滿洲ニ關スル日清交渉談判筆記

第八回本會議

明治三十八年十一月三十日午後三時十五分開會

列席者前回ニ同シ慶親王ハ病氣欠席

小村男 本日ハ貴全權ヨリ提出ノ追加條款ノ第一條ヨリ相談スヘシ

袁全權 承知セリ

小村男 貴全權ノ提出案ハ大體ニ於テ主旨ヲ了セリ尙御説明ノ必要アリヤ

袁全權 本員等ノ提出ノ第一條ヨリ第七條迄ノ個條ハ上ハ皇帝陛下ヨリ下ハ一般臣民

ニ至ル迄同一ニ希望スル事柄ナリ第一條ニ就テハ入り組ミタル事情アリ其以下各條

ハ我國ヨリ當然提議スヘキコトナリ此ノ第一條ハ滿洲ニ再ヒ擾亂ナキ様一般ニ希望

スルノ主意ニ基クモノニシテ總テ擾亂ノ原因ハ之ヲ根絶スルノ要アリ而シテ該地方

ニ兩國ノ兵ヲ駐ムルコトハ最モ擾亂ノ起ル原因トナル故此等原因ハ我國一般之ヲ取

除クコトヲ希望スルナリ將來ニ擾亂ナキコトヲ期スルコトハ貴國皇帝陛下ノ教旨ヲ

初トシ貴國一般ニ大局ヲ維持スルヲ希望セラル、ノ御主旨ニ協フヘシ

尙先日小村大使ヨリ交付セラレタル日露講和會議ノ覺書ヲ拜見シタルニ貴全權ヨリ

撤兵ニ關シ提議セラレタル御主旨ハ本員等ニ於テ同感ノコトナリ其ノ御主旨ハ遂ニ

徹底セザリシコトナルモ本員等ニ於テハ之ト同一ノ主義ナルニ付キ之ニ基キ出來得

ルナラハ此事ニツキ先ツ貴國ノ承諾ヲ得更ニ露國ト議スル積リ也日本カ先ツ承諾セ

ラレバ我方ノ立場強ク究明ヲ萬端露國承諾ニ望ムル所ナリ又露國ハ我地方ニハ都合ヨキコトナリ。其ノ本質ニ於テハ露國ハ自國ノ利益ヲ保シテ他國ノ利益ヲ顧ミテ居ルコトナリ。然レハ其後露國ヨリ屢ク要求ヲ爲シ自國兵ヲ出サシト云ヒタルモ清國ハ絕對ニ之ヲ拒絶セルニヨリ然ラバ結局巡捕兵ヲ以テスヘシト申出タル所尙之ヲ承諾セズ此ノ事ハ當時内田公使モ能ク御承知ノ筈ニテ當時守備兵ヲ置ク事ヲ露國ニ許スヘカラストノ御話アリタルナリ。

小村男 第一條第三項ニ分カズリ旨ハ撤兵期限ヲ十二ヶ月ニ短縮スルコト第二ハ鐵路守備兵ヲ撤退シ清國自守守備ニ任スル所ノ主旨ナリト思考ス如何。

袁全權 然レ鐵道保護問題ニ付キテ露國トノ條約ニ於テモ鐵道ハ清國ヨリ保護スルコト、ナリ居ルハ然レ然レ其後露國ヨリ屢ク要求ヲ爲シ自國兵ヲ出サシト云ヒタルモ清國ハ絕對ニ之ヲ拒絶セルニヨリ然ラバ結局巡捕兵ヲ以テスヘシト申出タル所尙之ヲ承諾セズ此ノ事ハ當時内田公使モ能ク御承知ノ筈ニテ當時守備兵ヲ置ク事ヲ露國ニ許スヘカラストノ御話アリタルナリ。

小村男 原來日本ハ御話ノ通り撤兵期限モ短キヲ希望セルヲ以テ講和談判ニ於テ短期ノ撤兵ヲ提議シタレトモ目的ヲ達セザリキ而シテ日露講和條約ニ於テ撤兵期限ヲ十八ヶ月以内ト定メ其範圍内ニ於テ詳細ノコトハ滿洲ニ於ケル兩國軍司令官ニ於テ協定スルコトニナリ即チ十八ヶ月ノ期限ハ既ニ條約ニ於テ決定シ其後又兩國軍司令官間ニ於テモ再ヒ十八ヶ月ト確定シタルコトニテ今更動スルコトヲ得ヌ又十八ヶ月カ

長キニ過ルコトナシト思フコトハ此前提議間ニ滿洲還附條約ヲ締結セラレタルトキモ其期限ハ十八ヶ月ニシテ其際ニ於ケル露軍ノ兵數ト今回ノ兵數トハ大ニ差アリ今回ハ非常ニ多數ナルヲ以テ其撤兵期限ヲ十八ヶ月ト定メタルハ決シテ不當ニ非ラス

滿洲ニ於ケル日本軍司令官ニ於テモ不得已ト認メ此期限ニ同意セル次第ニテ又實際

ニ於テモ露國ノ大兵ハ十八ヶ月間ニ非ザレバ撤兵ヲ實行スルコト能ハス故ニ今更此
ノ撤兵期ヲ短縮スルコトハ到底行ハルベキコトニ非ズ貴國ニ取リテ大切ナルコトハ
此期限ヲ短クスルコトニアラス要ハ露軍カ果シテ十八ヶ月間ニ撤兵ヲ實行スルヤ否
ヤニ在リ之カ條約通り實行セラル、ナラハ六月位長クトモ大局ニハ關係ナカラシ
撤兵期限ヲ出來得ル限り短縮スルコトハ原來日本ハ希望故日本ニ取リテハ困難ナキ
モ露軍ニ取リテハ十八ヶ月ヲ要スルコト故之ヲ短クスルコトハ困難アリ故ニ若シ露
國カ貴國ノ相談ニ應ジ短縮スルコトヲ承諾セハ日本ニ於テ固ヨリ異議ナキナリ
然ルニ先日差上タル書類ニテ御覽ノ通り露國ハ期限ヲ定ムルコトヲ可成避ケント爲
シタルモ漸ク十八ヶ月ニ打切ルコトヲ定メシメタルモノナレハ更ニ十八ヶ月ヲ短縮
シテ一年トナスコトハ到底露國ノ承諾ヲ得ル見込ナカルヘシ露國ハ期限ヲ定ムル
コトヲ避ケントスルモノナレハナリ日露講和談判ノ最終ノトキニ於テ撤兵期限ヲ
定ムルヤ否ヤニ就キ大議論ヲ生シ我方ニ於テハ若シ期限ヲ定ムルハ談判破裂ト迄ニ
論及シ漸クニシテ十八ヶ月ニ纏ズ得タルナリ斯様ノ次第ナルヲ以テ露國カ再ヒ期限
ヲ減少スルコトハ到底不可能ノコトナリ又其後滿洲ニ於ケル兩軍司令官談判ノ模様
ヲ見ルニ事實十八ヶ月以下ニテハ撤兵ヲ完了スル目當カ附カズ即幾十萬ノ兵ヲ一線
ノ鐵道ニヨリ還送スルコト故其輸送力ヲ考テハ十八ヶ月以内ニハ行バル、見込ナ
シ故ニ十八ヶ月以内ニ短縮ヲ求ムルハ行ハレザルコトヲ強要スルコト故決シテ成立
ハ見込ナシ原來日本ノ方ハ最初提案ノ通り十ヶ月ニテ差支ナキコトナル故露國カハ

同意スレハ異議ナキモ露軍ニ於テ實際ニ出來サルコトヲ取極ムシトスルハ畢竟不可能ノコトヲ取極ムルニ過キス故ニ十二月ト定ムルコトハ到底出來サルナリ

袁全權 貴全權ノ御主旨ハ充分ニ了解セリ然レトモ滿洲ニ於ケル官民等カ滿洲ニ外國兵ノ在ルコトハ非常ニ困難ヲ受クルコト故我政府ハ可成速ニ之ヲ免レシムコト欲ス

滿洲還附條約ニ於テ露國ノ撤兵期限ヲ十八ヶ月ノ長キニ定ムタル爲メ中途ヨリ實行セラレズ今回モ斯ノ如キ途中變更ノ患ヲ防ク爲メ短期限ニ定ム度キナリ今露軍ノ兵數ハ三十六ヶ師團アリテ一月ニ二ヶ師團ヲ撤回スレハ十八ヶ月トナルモ若シ迅速

ニセハ一月ニ三ヶ師團ヲ撤シ得ヘキカ故ニ十二月ニテ全體撤シ得ヘシト考テ故ニ先ツ貴國ノ御承諾ヲ得テ露國ニシテ承諾セシムハ貴國ニモ實行ヲ求メサル積ナリ

小村男 固ヨリ露國ニ向テ貴國政府ヨリ相談セラル、ヲ彼此云フニアラサルモ原來講和條約ニテ期限ヲ十八ヶ月ト定メ其後又滿洲ノ兩軍司令官ニテ双方軍隊ノ實況及輸送力ヲ考量シテ事實十八ヶ月ヲ要スト確認セリ之ヲ今日日本ヨリ進テ更ニ短縮スルコトハ到底出來サル譯ナリ又日本カ豫メ約束スルコトモ出來ス其理由ハ既ニ滿洲ニ於テ露軍ノ實況及其軍ヲ送還スル輸送力ノ極度ヲ量ラ定ムタルコトニシテ此事ハ我司令官ニ於テモ能ク了知セル處ナリ然ルニ是等ノ事ヲ十八ヶ月カ長キニ過クルトカ過キストカ云テ事ハ我等素人ニ於テ知ル處ニ非ス是ハ實際ノ問題ニシテ専門家ノ定ムルコトナリ

袁全權 本員等ノ主旨ハ可成撤退ヲ早メテ人民等ノ疾苦ヲ速ニ免レシメントノ希望アリ又之ヲ長期ニスルカ爲メ其期限中ニ何等ノ異變ナキヤヲ恐ル、ニヨリ可成速ナラントコトヲ希望ス故ニ多少ナリトモ短縮ナル、コトヲ得ハ短縮セラレタラハ更ニ露國ト商議スヘシ

小村男 日本ハ露國ノ同意ヲ經スシテ之ヲ短縮スルコトヲ得ス此レハ二回迄確定セルコトナリ即チ一度ハ講和談判ニ於テ又一度ハ兩國軍司令官ノ會議ニ於テ決定セルコトナリ今更之ヲ破ルコトハ斷シテ出來ス故ニ貴國ハ先ヅ露國ノ承諾ヲ求メラルヘシ露國承諾セハ露國ヨリ日本ニ相談スルコトナラシ此ノ場合ニ於テハ日本ハ之ニ應スルニ困難ナカラシ其レハ講和會議録ニ擧ゲタル本件ニ關スル日本國第一ノ提議ニヨリ短期ヲ希望スル主意明カナル故其相談ニ應スヘシ

將又御承知ノ通り日本政府ノ主旨ハ出來得ル限り短縮ヲ希望シ最初ハ十ヶ月次ハ十二ヶ月ナリシモ結局十八ヶ月ト爲シタルナリ即チ日本ハ十ヶ月ノ期限案ヲ出シタルモ成功セズ失敗セルナリ期限ヲ短クスルコトハ既ニ企テ、目的ヲ達セカリシコトナルカ故ニ日本ハ此上露國ニ對シ交渉ノ餘地ナキニ付萬一貴國ハ露國ニ交渉セラレ成効セラレナハ日本ハ喜ソテ期限短縮ノ御相談ニ應スヘシ

固ヨリ期限ノ短カラシコトハ當初ヨリ日本ノ希望ナルヲ以テ可成短キコトヲ提案セシモ遂ニ露國トノ約束ニテ十八ヶ月トナリシ以上ハ我政府ニ於テ重キヲ置クハ期限ノ短縮ニアラス露軍ヲシテ約束通り撤退ヲ實行セシムルニ在リ故ニ大切ナルコトハ

B-0039

露軍カ十八ヶ月内ニ到底撤兵スルコト能ハスヲ言フ如キ口實ヲ與フルコトヲ務メテ
避クルニアリ如斯ニ回迄十八ヶ月ト確定シタルコトヲ爰ニテ變更スルコトハ露國ニ
與フルニ日本ハ撤兵期限ノ變更ヲ企テタリトノ口實ヲ以テスルコトナレハ甚不利益
ナリ日本ハ力ヲ盡クシテ漸ク十八ヶ月ノ期限ヲ定メシメタリ此以上ハ日本ノ力ニ及
ハス貴國ヨリ先ツ露國ト相談ヲ試ミラルヘシ其上ニテ若シ彼等カ承諾セハ日本ハ喜
シテ御相談ニ應スヘシ、
袁全權 本件ニツキ假リニ露國ト協議ヲ開クモ容易ニ纏ヤルヘキニ非ラズ充分ニ談判
ヲ重ヌルモ十日ヤ二十日ニハ出来サルヘシ又之カ爲メニ日清兩國カ先キニ開キタル
會議ヲ延ス能ハス且又我方ヨリ露國ニ協議スルトスルモ只空ニ話スルトキハ先方ハ
日本ノ方ニ承諾カナケレハ相談ニ應スルコト能ハスト云フコトニナルヘシ斯ノ如ク
ニシテ此事カ纏ヤラストテ其儘ニスル譯ニハ出来サルナリ、
内田全權 撤兵期限ヲ短縮スルコトハ本使ヨリ貴國政府ニ公然講和條約ヲ通知スル以
前ニ外務部ヨリ御照會アリ之ト同時ニ露國ニモ照會セラレタリトノコトナリシカ右
ニ對シテハ露國公使ヨリ回答アリタリヤ若シテナラハ如何ナル回答ニ接セラレ
シヤ
置全權 彼ノ照會ヲ發セシトキハ露國ノ代表者ハ代理公使ナリシカ其レヨリハ直接回
答ナシ只駐露胡公使ヨリ御相談スルモ可ナリトノ旨露國政府ヨリ回答アリタル趣來
電アリシナリ、

小村男 第一ニ御尋致シ度ハ貴國カ此事ヲ露國ニ相談セラレテハ露國ハ承諾スルニ其
思ハルヤ如何
袁全權 本員等ノ見込ニテハ全然拒絶スルト云フ意味モオカシト思フ

小村男 實際ノコトヲ考ラレヨ露國ノ司令官ト日本ノ司令官間ニ研究決定シタル問題
ニシテ之カ變更ハ露國ハ斷然承諾セザルヘシト云フ所以ハ之ヲ短縮スルコトハ事

實行ハレサルコトアレハナリ事實出來次第コトヲ強テ交渉セラル、トキハ恐クハ其
決定ヲ見ルノ時期ハ十八ヶ月以後ノコトナルヘシ(此時清國全權等皆笑ス)

故ニ撤兵期間短縮ノ問題ハ是非共撤回ヲ希望ス此事ニ付キ直ニ露國ニ相談セラレ奉
露國カ應ズルトキハ日本ハ即坐ニ次答スヘシ其レハ日本ノ主意ニテ其主意ハ先般迄

上アル書面ニテ明瞭ナリ然レトモ此ノ問題ヲ茲ニテ議スルコトハ會議ノ進行ニ妨ケ
下タル故ニ斷然撤回ヲ請求ス本件ハ別問題トシテ日露兩國ニ交渉セラル、トキニ致

シタシ
袁全權 然ラハ只今ノ理由ニ付日本ハ期限短縮ニ不同意ナキガ露國カ承諾ノ場合ハ日
本政府モ承諾ストノ意ヲ貴大臣ヨリ公文ニ認メテ遣ハカレタシ然ラハ其レヲ根據ト

シテ露國ニ當リテ見ルヘシ若シ斯クシテ出來得レバ大効アリ又出來ストスルモ我ハ
日本ノ厚誼ヲ感ゼン

小村男 最前ヨリ屢申シタル通り十八ヶ月ノ期限ハ既ニ離和條約ニ於テ確定セルコト

ナリ故ニ苟モ日本カ此期限ヲ變更セツト試ミタリトコトヲ表示スルニ於テハ露國

三番七

B-0039

ニ條約ヲ守ラシムル上ニ於テ不利益ナル口實ヲ與ケルヲ端緒ヲ啓シヘシ露國ヲ以テ
嚴密ニ條約ノ規定通り撤兵ヲ實行セシムル爲メ日本ハ嚴シキ期間ヲ守リ取テ變更サ
シムルコトヲサカシルヲ得策トシ又貴國ニ於テモ大ニ利益トナルヘシ故ニ御希望ノ
如ク公文ヲ發スルコト能ハス只今後露國ヨリ撤兵期限ノ短縮ノコトニ就キ日本政府
ニ相談アラハ日本政府ハ何時ニラモ之ニ應スヘシ然レトモ日本ハ露國ニ對シテ期限
ヲ十八ヶ月ト定メテホカテ清國ニ對シテハ十二ヶ月ニテ可ナリトノコトヲ明言セリト
ナルホキハ日本ハ條約ヲ動カサズコトヲ試ミタリトノ口實ヲ露國ニ與フルナリ故ニ
只露國ヨリ交渉アラハ之ニ應スヘシトノコトヲ會議録ニ留ムルコトハ爲シ得ヘシ
其他ニハ致方ナシ
内田全權 撤兵期限短縮ノコトハ以前滿洲還附條約締結ノ時ニ照ラシテ露國カ應スル
コト能ハサル事情アルコトヲ本使ハ知り居ルナリ以前滿洲撤兵モ最初露國ハ三年
ノ期限ヲ提議セシモ本使ハ十二ヶ月トスヘシトノ注意ヲ貴政府ヘ與ヘ慶親王カ其衝
ニ當ラレテ結局十八ヶ月トナリシナリ今回ハ當時ノ兵數ト大ニ異リ其數非常ニ多ク
短日月ニテ撤兵スルコトハ到底不可能ナリ又今日ハ日露講和條約成立後既ニ約三ヶ
月ヲ經又其實施後一ヶ月半ヲ過キタルコト故今ヨリ該期限ヲ短縮スルコトハ何レニ
シテモ小問題ナリ今ニ於テ彼レ是レ一二ヶ月ノコトヲ爭フモ何等ノ効アルコトナシ
本員等ハ憂慮スル處ハ露國ヲシテ條約通り十八ヶ月内ニ撤兵ヲ實行セシムルコトニ
アリ之ヲ實行セシムルコトハ大切ナル問題ナリ之ヲ短縮セシムルカ如キ貴國カ其

見込之ヲハ敬テ止ムルニテラサルモ事實ニ於テ出来サルコトナリ此ノ事實出来カ
ルコトヲ企ツルハ甚不可ニシテ本員カ貴國ノ良友トシテ勸告シタキコトハ撤兵期限
ヲ動かサントスルコトヨリ露國ニ口實ヲ與テルカ如キコトヲ避ケ我國ニ於テ充分露
國ニ條約實行ヲ迫リ得ル様ニ爲シ置クコトナリ
袁全權 我方ニ於テハ只土地ノ人民等ノ困難ニ基キ又地主タル理由ヲ以テ出来得ル限
リ露國ニ催促シテ見ルヘシソレニテ出来レハ可ナリ若シ出来ストモ斯ク迄盡力シタ
リト云フコトヲラハソレニテ可ナリ此問題ハ擧置キ次ニ移ルヘシ次項ニ對シテハ如
何ノ御主旨ナルヤ
小村全權 是モ御承知ノ通り露國ハ兵數ニ制限ヲ置カサラシコトヲ欲シタリ之レハ管
方ヨリ差上タル説明書ヲ覽ラレバ明カナラシト思フ日本ニ於テハ此ノ兵數ノコト
ヲ取極メ置カサレハ撤兵ハ十八ヶ月内ニ實行スヘキモ後ニ露國カ守備兵トシテ多數
ノ兵ヲ置ケバ撤兵ハ有名無實トナル故之ヲ制限スルコトヲ必要トシテ案ヲ出セルナ
リ然ニ露國ハ兵數ヲ制限スルコトハ困難ニシテ此事ハ滿洲ノ状態ニ依ルコトヲレバ
トテ確定スルコトヲ願フル難スル状態ナリシ故長ク議論ノ結果漸ク一キロメト
ルニ付十五名ト纏メタルナリ鐵道守備隊ノコトモ撤兵期限ト同様ナリ講和條約及其
他ニ於テ確定シ露國ニ於テ頗ル難色アリシモ漸クニシテ十五名ト爲サシメタルコト
ナレバ日本ハ之ニ對シテ今更テ兵數ヲ減シ又ハ之ヲ撤去スルカ如キコトヲ申込ムコ
トハ到底出来サルコトナリ

然シ日本ハ守備隊ヲ永久滿洲ニ置ク主旨ニ非ズ只鐵道保護ノ爲メ守備スルノ意旨ノ
ミ故ニ貴國カ滿洲ニ於ケル施政整頓シ自身安寧ヲ維持セザル、ノ時機ニ至ラハ守備
兵ヲ置ク必要ナク又露國モ其時機ニ至ラハ同様ニ兵ヲ留メ置クノ口實ナカルヘシ故
ニ日露講和條約ニテハ「キロム」トシテ五名ト決定シ居ルモ日本ハ永久留ムルノ主
旨ニテラサルコトタケテ聲明シ置カント欲ス
其永久ナラサル主旨ヲ明ニスル爲メ條約中ニ一條ヲ加フルモ可ナリ其文案ハ茲ニス
ルヲ以テ御覽ヲ乞フ
此時小村全權ハ該文案ヲ袁全權ニ交付セリ(附屬書第一號第二號)
袁全權 撤兵ハ既ニ十八ヶ月トノ期限ナリ然ルニ守備隊ニハ撤退期限ナシ而シテ兵
シテ我地方ニ在ル以上ハ假令ヒ鐵道守備ノ爲タリトモ我ニ於テハ危險ヲ感ス故ニ貴
方カ第六條ニ重キヲ置カル、關係ノ如ク我方ニ於テハ此條ニ重キヲ置クナリ何トカ
此事ニ就キ御考量ヲ乞フ
又我方ニテハ既ニ滿國兵ヲ派シ充分外國人ヲ保護スヘキコトナルヲ以テ鐵道ニ關係
スル人員ヲモ保護スヘキ責アルハ當然ナリ出來得ル丈ノ保護ヲ爲スヘキナリ然ラズ
シハ我責任ヲ盡ス能ハス
只今清國ニハ六個師團アリ其内三個師團ヲ派セバ充分ニ且ツ詳密ニ保護スルコトヲ
得ヘシト思考ス
袁全權 最初ヨリ鐵道保護ノコトハ清露條約ニ於テ清國カ其責ヲ任ズルコトナルヲ

ソレハ露國ニ對シテハ我ヨリ抗議ヲ申込ムヘキ理由アリ然ルニ貴國ト先ツ取極メテ
爲カスツハ露國トノ交渉ニ大ニ差支キ生ス此ノ件ハ清國全體ノ意見ニテ外國ノ守備
兵ヲ留ムルコトハ危險ト認ムルニ付貴全權ノ御考量ヲ乞フ

小村男 日本ニ於テ最モ危險トスル處ハ再ビ露國ト衝突スル場合カ一番危險ナリ
暨全權 本員ノ考ニテハ露國ハ信義ヲ重セサル故鐵道ニ關シテ露國ニ駐兵ヲ許スハ第
一ノ危險ナリ

小村男 先刻申ス通り露國ハ鐵道守備ノ兵數ニ制限ヲ置クコトヲ拒ミタルヲ非常ノ盡
力ヲ以テ漸ク一キロメートル十五名ト定メシメタルハ日本ノ大成効ナルコトヲ考ヘ
ラレサルヘカラス

故ニ最前ヨリ申ス通り第一ノ危險ハ近キ將來ニ於テ露國カ撤兵ヲ實行セザルコトニ
アリ若シ之ヲ實行セストスレバ條約通り實行セシメカレヘカラヌ故ニ撤兵期限ト同
様一旦露國ト確定シタルコトヲ貴國ト高議シテ變更セツトスルコトヲ不可トスルノ

理由ハ若シ之ヲ變更セストセハ露國ニ口實ヲ與ヘテ條約ニテ定メタル制限ヲ解キ遂
ニ露國ハ大軍隊ヲ留ムルモ知レズ斯カル口實ヲ與ヘカレ限リニ於テ協定セツト欲シ
此案ヲ作りタル次第ニシテ此レハ十分研究ノ結果ニシテ一方ニハ露國ニ口實ヲ與ヘ

ヌ又一方ニテハ貴方ノ主旨ヲ斟酌シテ之レナレハ差支ホカレヘシト思考シテ此ノ案
ヲ出シタル次第ナレハ充分御考量アリタシ

露國ハ滿洲還附條約ニ於テ貴國カ滿洲ニ置ク軍隊ノ兵數ニ制限ヲ加ヘタリ即チ露國

音字ニ

B-0039

撤兵後貴國ハ滿洲ニ置ク兵數ハ其都度露國ニ通知スルノ條約ナリ居リ露國ハ清國
兵ノ多寡ニ容喙シ得ルノ地位ニ居ラントモリ日本ハ斯ル制限ヲ設ケントモ貴國カ
何程ノ兵ヲ置カル、トモ何事ヲモ言ハサルナリ此ニ就テハ還附條約第三條ヲ見ラレ
タシ

袁全權 露國トシテ條約ハ實行セサル條約ニ付我方ニテハ之ヲ認メ居ラス然モ日露講和
條約ニ於テ露國ハ滿洲ニ於ケル獨占權及ヒ特權ハ之ヲ放棄ストアリ故ニ鐵道保護ノ

コトモ清國ノ責任タルハ當然ナリ我ハ現在ニ於テ保護ノ責ヲ盡スコト出來得ヘシト
信ス敢テ將來ヲ俟タズ然ルニ貴方ノ案ニヨレバ守備兵撤退ノ期限モナク只清國自ラ

爲シ得ルコトヲ認メタラハト云フコトニナリ居レリ我ニ於テ實力アリト認ムルモ貴
國カ認メストアレバ結局要領ヲ得サルニアラスヤ無論守備兵ヲ撤去スルコトハ這回

撤兵後ノコトナリ故ニ撤兵ト同時ニ我方ヨリ着々保護ノ手段ヲ執リ責任ヲ全クスル
ハ我當然ノ義務ナリ貴國ハ假令ヒ鐵道線路ニ於テ守備兵ヲ有セラレトスルモ貴國

ノ兵ハ租借地内ニ在リ然シテ露國カ貴國ト同時ニ撤兵ストモハ餘ハ浦鹽ニ在ルノミ
從テ若シ事アラハ貴軍ハ距離ノ點ヨリ先着スルコトヲ得ヘク地位上優先ヲ占ム故ニ

守備兵ヲ撤去スルコトハ貴國ニ利アルモ審ナシト思フ
小村男 一朝事アルノ時ハ争ノ地點ニ先ツ兵ヲ出スヲ要ス然ルニ今回ノ戰爭ニテ知ラ

ル、通り出兵ノコトハ鐵道ノ一線ニテ出來タルナリ故ニ他日若シ再ヒ日露間ニ事アル
ルトキ鐵道ヲ破壞セラル、カ如キコトアラハ兵ヲ輸送スルコト出來ス故ニ此事ヲ安

全ニナソ置クハ必要ニシテ戰ノ勝敗ニ關係ス滿洲ノ行政全然整頓シ兵備警察其他各般ノ行政完備シ貴國ノ實力ヲ以テ露國及日本ノ管理ニ屬スル鐵道ヲ安全ニ保護セラル、ニ至ラハ最早ヤ兩國共兵ヲ置クノ必要ナシ此期ニ至ラハ日本ヨリ進テ露國ニ交渉スヘシ然ルニ今此事ニツキ講和條約規定ノ變更ヲ企ツルトモ事實行ハレサルヲナラス露國トノ條約ヲ變更スルコト、アルヲ以テ行フコト能ハス我方ノ書方ナラハ露國トノ取極ニモ反セサル範圍内ニ於テ永久ニハ兵ヲ置カサルノ主意ヲ明ニス其積リニテ書キタルコトナレハ此ノ事情ヲ考ヘテ御覽アラソコトヲ乞フ此案ニ於テハ期限ヲ定メスシテ貴國ニ於テ獨力保護スルノ時ニ違スレバトアルヲ以テ貴國ハ既ニ違シタリト云ヒ日本ハ違セズト云ヒ實際限リカレヘシトシテ御懸念アルモ此レハ兩國ノ厚誼ニヨリ如何様ニモ相談シ得ヘキコトナリ若シ此レカ出來ストセハ兩國間ニ厚誼ホシト云フコトニナル厚誼アルコトヲ信セハ又相談スルコトヲ得ルコトヲ了解セラレソ故ニ貴國カ自衛ノ力ヲ具フルノ時機ニ至ラハ日本ヨリ露國ニ交渉スヘシ即チ日本カ守備兵ヲ撤去スル故露國モ撤去スヘシト申込ムヘシ故ニ毫モ御懸念ノ要ナカレヘシ

袁全權 本員等カ貴國ニ反對スルニハ理由アリ即チ鐵道守備兵ノ一事ハ我全國人ノ考ニ於テ最モ危險ナリト認メ舉國之ニ同意ヲ表セズ故ニ承諾出來ス第一當初ノ露國トノ條約ニモ清國自ラ鐵道保護ノ責ニ任ストコトアリ第二先キニ滿洲ノ土地ニ關シテ貴國ト露國ト定メタルコトハ清國ニ於テ承認ヲ與ヘスト聲明シ置ケリ清國ハ當初ヨ

保護ノ實ヲ有シ又露國ニモ此保護ノコトヲ許シタルコトヲ以テ故ニ承諾出來サルナリ然カノミナラズ露國ノ保管スル鐵道ト日本ノ保管スル鐵道トヲ比較セハ露國ノ保管スル分頗ル長シ一キロメートル十五名トシテ算出セハ露國ハ倍數ノ兵トナルナリ此ノ守備ニ清國カ當レハ貴國ノ防備上ヨリスルモ利益トナル答ナリ貴國ニ於テ我國カ保護シ得ルコトヲ信セラレハ我國ハ斷シテ保護ノ實ゾニ當ルヘキナリ然ルニ貴國カ之ヲ信セラレサルニ於テハ例令貴提案ニ於テ清國カ保護シ得ル實カチ有スルニ至レハトアルモ其時ニ至リ矢張り貴國ハ清國ニ於テ出來スト認メラルモ已ムテ得サル次第ナリ

小村男 其レハ今モ云フ如ク兩國間ニ厚誼ノ存スルニ於テハ如何様トモ御相談出來ルコトナルニシテ蓋シ露國ト貴國トナラハ知ラサルモ日本ト貴國トノコトナレバ困難ナカラソ此レハ議論ニアラス事實問題ナリ貴國カ實カチ有スルニ至リシトノコトハ明ニ現ハレ來ル事實ナリ何人ト雖モ觀察出來ルコトナレハ局外者ニ於テ公平ニ知ルヲ得ヘシ御懸念ヲ要セス此ノ時機ニ至ラハ日本ハ自ラ進メテ守備兵撤去ノ問題ニ付キ露國ニ當ルヘシ其方カ貴國ノ體面ニモ宜シク又利益ナリ只今袁全權ハ屢々現在清國ニ於テ保護ノカヲリト云ハルモ滿洲撤兵後貴國ハ如何ナル處置ヲ取ラル、カハ未定ノ問題ナリ今ハ只貴方ノ計畫ノミニシテ事實ニ顯ハレヌ日本ハ未ダ事實如何ヲ見スシテ只御計畫ノミヲ以テ満足スルコト出來ヌ計畫ヲ實行セラレハ若々事實ニ現ハレ來ル其事實ニ現ハル、迄ハ判斷スル方法ナキヲ以テ

我提案ノ如ク警クノ外致方ナシ又日本政府ノ主旨ニアラトコトハ能ク御了解ト思フ
日露議和談判ニ於テ日本ハ當初「キロヰ」ト云フ五名トナリテ「ソコ」ヲ提議セリ然ルニ
露國ハ兵數ヲ限定スルコトヲ好マズ依テ日本ハ露國ニシテ此數ヲ限定スルコトヲ承
諾セサルハ條約ニ調印出來スト云ヒタレハ露國ハ然ラハ「キロヰ」ト云フ二十名トナ
リシト云ヒ辯論ヲ重キテ遂ニ二十五名ニ決セリ日本政府ノ主旨ハ是レニテ分明ナラシ
今後貴國カ滿洲改革ヲ實行カレ行政完全鞏固トナルノ時機ニ至ラハ日本ハ守備兵ヲ
撤去スル手段ヲ必ズ遂行スヘシ此ノ主旨ヲ御了解アリテシ
衰全權 本員ハ從來決シテ輕卒ニ斷言セサルモノナリ其例ハ前キニ義和團事變後本員
カ直隸地方ヲ引受ケタルトキ諸外國人ハ本員カ土地鐵道及外國人ノ生命財産ヲ保護
スルヲ得ストノ懸念ヲ有セシモ本員カ引受ケテヨリ二年ヲ出デス遂ニ保護ヲ全フセ
リ本員ハ出來得ル限り盡力セリ此度モ同様ナリ本員ノ考ニテハ兵ヲ殘スコトハ全國
一般ニ懸念スルトヨロニシテ元來兵ハ火ノ如ク物ヲ燒ク而シテ清國ハ燒カレテ苦ミ
タルノ前例アリ故ニ可成禍根トナルヘキ火ヲ存セサルコトヲ希望ス兵ゾレハ大ナリ
小ナリ禍ノ元トナルニ付殘スヘカラス又日本政府ノ主義モ滿洲大局ノ保全ニアリ貴
全權モ亦然リ故ニ清國ノ禍ヲ存セサル様致シタシ
小村男 貴意ハ明瞭ナリ袁總督カ直隸保護ノ任ニ當ラレシ以來銳意安寧秩序ノ恢復ニ
全カテ盡カレ其結果直隸ニ居住スル外人ノ生命財産安全ナルニ至リシハ本員モ能ク
之ヲ了セリ即チ昨今直隸ヨリ外國軍隊引上ノ問題起ルニ至リシモ其結果ノ一ナリ此

レハ事實ニ於テ袁總督ノ計畫カ當リ來リタルナリ故ニ滿洲ニ於テモ其計畫カ實行カ
レ其結果事實上ニ顯ハレ來ルトキハ守備兵撤退ノ問題ヲ決スルコトハ容易ナリ夫レ
迄ハ露國トノ條約ヲ變更スルコトハ斷シテ出來ス

袁全權 只此ノ事ハ全國人ニ關係アリテ滿洲ニ外國兵ヲ留ムルハ一般ニ希望セサル事
ナリ又露國モ事變ノ爲メ滿洲鐵道ヲ破壞セラレタルニ就キ我方ヨリ莫大ノ賠償ヲ出
シ其上ニテ該鐵道ヲ我カ軍隊ニ於テ保護スト云ヒタルカ露國ハ三千ノ巡捕ニテ保護

スト云ヒタリ内田公使ハ之ニ反對セラレ結局清國ニテ保護スト露國ニ約セリ故ニ今
日外國兵ヲシテ保護セシムルコトハ到底承諾出來サルナリ

又只今袁全權ノ御話ニ軍隊ヲ駐メ置クコトハ露國ニ對スル防備ノ一ナリトアリシモ
貴國ハ露國ノ條約第二條ニヨルモ露韓ノ國境ニ防備ヲ施サスト云フコトアリ故ニ滿
洲ニ於テモ同様ニ爲スコト能ハサルヤ

小村男 夫ハ本問題ノコトハ防備ニアラズ鐵道守備ガリ故ニ「キロギ」ト云フ以テ標準
トナシタレバ相互兵數ノ差アル所以ナリ若シ防備ナルニ於テハ兵數ニ差ヲ置クヲ得
ス同一ニスルコト必要ナルモ然ラサルヲ以テ鐵道ノ長短ニヨリ差アルナリ守備ハ防
禦ト異ルナリ

袁全權 兵ハ武備ノ頭腦ナリ兵アル以上ハ武備ノ頭腦ヲ存ス先キニ露國公使「キロギ」
ヲヨリ訪問ヲ受ケタル際本員ハ滿洲ニ於テ多數ノ兵ヲ駐ムルコトアラサヤト
云ヒタルトキ「キロギ」ハ其レハ兵ニアラズ巡捕ナリ人數モ亦何萬ト云フニアラス

何干ナリト答ヘタリシモ本員ハ假令巡捕タリトモ清國ハ之ヲ許サスト云ヒタルコトアリ

小村男 本問題ニ就キ困難ヲ感スルハ露國ニアリ露國ハ我提議ニ於テ「キコソト」ル

五名トセシヲ増シテ二十名トナサント提議シ結局十五名ニ決定セシ次第ニ付之レハ撤兵期限ト同様ニ露國ヨリ相談アラハ日本ハ何時ニテモ之ニ應スヘシ日本ハ戦争ヲ

繼續スルヤ否ヤノ危険ヲ冒シテ漸ク十五名ト定メ得タルナリ此上ハ再ヒ戦フニアラカレハ露國ニ交渉スルノ餘地ガシ故ニ貴國ヨリ露國ニ當リ露國カ承諾シテ日本ニ交

渉セハ日本ハ何時ニテモ相談ニ應スヘシ撤兵期限問題ト同様ニスヘシ

(此時袁ハ唐ト相談セリ)

置全權 此レハ撤兵問題ト同様ナラヌ此ノコトハ最初ヨリ露國ニ承諾ヲ與ヘタルコトナキハ勿論袁全權ヨリ「ホコナロフ」ニ述ベタルコトハ慶親王ニ於テモ同様ノコトアリ

又日露兩國ハ宛テ此事ヲ承諾セサル旨ヲ通知シタルモ同様ノ主意ナリ今日ハ上陛下ヲ始メ各省ノ總督巡撫及外國留學生等迄モ外國ノ兵ヲ駐ムルコトハ承諾ヲ與フヘカ

ラスト云フニ一致ス今若シ滿洲ニ日露兵ヲ駐ムルコトヲ承諾セハ本員等ハ兩宮ニ復命スルコト出來サル地位ニアリ御諒察ヲ乞フ

貴國ハ何事ニ拘ハラヌ清國ニ對シ邦交ヲ重セラル、主義ナレバ何トカ我方ヨリ露國ニ向テ交渉スル途ヲ與ヘラレタシ

小村男 末末ヲ顛倒セラレラハ不可ナリ原來露國ハ撤兵ヲ實行スルヤ否ヤハ大問題ナ

守備兵ノコトハ未ナキ若シ露國カ撤兵セズハ如何ニスヘキヤト云ラコトヲ研究セ
ラレタシ萬一露國カ撤兵セズハ日本ハ尙ホ露國ト戦端ヲ啓カサルヘカラス今ハ條約
ヲ嚴守シテ露國ニ聊カタリトモ約束ニ違フ口實ヲ與フヘカラス故ニ露國ナシテ撤兵
ヲ完了セシムル迄ハ斯ル舉動ハ避ケサルヘカラス故ニ先ツ貴國ヨリ露國ニ交渉シ露
國之ニ應スレハ日本ハ喜ソテ之ニ應スヘシ日本ハ既ニ講和條約ニ於テ盡ク限リ盡シ
タルモ充分ニ成効セザリキ此上交渉ノ餘地ヲ有セス故ニ露國ヨリ交渉アラハ日本ハ
喜ソテ之ニ應スヘシ因テ本問題ハ日清露ノ三國ニ關係アリテ三國ノ同意ナケレバ變
更スルコトヲ得ザルコトナルカ故ニ尙ホ撤兵迄ニハ時日ノ餘裕モアルコトナレハ此
儘ニ致シ置クヘシ其時機ニ至リ相談スルコト、セカレバ結局解決スルコトヲ得ス
衰全權 要スルニ今回ノ交渉ニ於テハ相方共ニ主腦トスルトコロアリ貴國ハ第六條ヲ
以テ主腦トセラレ清國ハ本件ヲ以テ主腦トスレバ此レヲ他ノ關係ヨリ撤回スルニ至ラハ
我カ主腦ヲ失スルコト、ナルナリ
畏全權 露國カ軍隊ヲ撤セントノ懸念アルニ付守備兵ヲ駐ムルノ必要アリトノ御説ヲ
リシモ露國カ撤兵セズハ貴國カ之ニ對シ抗議セラル、ハ當然ナリ然ルニ露國カ條約
通り着々撤兵セハ之ニ對シテ貴國カ守備兵ヲ留ムル必要ナカルヘシ、
小村男 兵ハ一旦引キテモ又直ニ出スコトヲ得ルモノ故若シ將來事アル場合ニハ鐵道
ハ必要ナリ完全ナル鐵道ノ保護ヲクハ事アルトキ用テ辨スル能ハス此ノ鐵道守備
ハ貴國ニテモ宜シ又我國ニテモ宜シ孰レニシテモ完全ニ保護スレハ足レリ故ニ貴國

B-0039

カ保護ヲ全クセラル、コトハナラハ我方ハ直ニ守備兵ヲ退クヘシ、是ハ只時機ノ問題
ナリ、貴國カ充分ニ保護スルコトヲ見込立ツ迄ハ日本ニテ保護セカレハ將來用チナカ
ルコトニナル、此レハ撤兵後モ同様ナリ

畏全權 撤兵ニ關シ只今小村全權ノ言ハレタル御話ノ前段ニ於テ何レノ國ニテモ完全
ニ保護セハヨロシトノコトハ善ク了解シ又深ク感謝ス、我方ニテ完全ニ保護カ出來
ル時機確定セサルカ如何セソ見ニ角、貴國ノ兵ノミ駐マリテ保護スルコトナラハ之ニ
對シテ大ナル異見ナシ又充分信用スヘシ、只貴國鐵道ノ延長里數ト露國鐵道ノ延長里
數トハ大ナル差アリテ、露國ノ分ハ長シ其長キ露國ノ鐵道ニアル兵ハ規律ナキ兵ナリ
此レヲ駐ムルコトハ他迄モ好マズ、單ニ貴國ノ兵ノミナレバ差支ガキモ露兵ハ甚不可
ナリ、故ニ可成ハ貴國ノ兵ヲ駐ムルコトヲ止メラルレバ夫レヲ以テ露國ニ交渉スル露國
ノ守備兵ヲ撤セシムルコトヲ得ヘシ、又一方ニハ我國ハ嘗テ露國カ守備兵ヲ駐ムルコ
トヲ承諾シタルコトナキ、故テ露國ニ於テ自ラ保護スル責アリ之レヲ理由トシテ露國ニ
交渉スルコトヲ得、先日モ貴大使ニ大體ノ主旨ヲ申シタルカ、此レハ貴國ノ安全ニモ關
係シ、又我國ノ安危ニモ關係スルコトナリ

小村男 御主旨ハ其通りナルモ、最前モ申ス通り、露國カ承諾セハ日本モ同意ス、然ルニ日
本カ今此時機ニ於テ、講和條約ヲ變更セントスルコトアラハ、露國ニ與テ日本ハ條
約ニ違反セリトノ口實ヲ以テ、鐵道守備ノミナラス撤兵ノコトマテ延引セシムルノ
口實ヲ與テ、ル次第ニテ、頗ル危険ニ付キ、務メテ之ヲ避ケサルヘカラス、今其口實ヲ與テ

B-0039

ルコトヲ避ケ一方ニハ貴方ノ主意ヲ酌ミ此ノ案ヲ作りタル次第ニシテ此ノ案ニ就キ御熟考ヲ求ムルノ外ナシ

盟全權 撤兵期限ハ御話通りナルモ保護兵ハ當初ヨリ露國ト取極メタルコトモナク又

撥キニ日露兩國間ノ取極ハ直ニ承諾出來スト照會シ置キタルニ付露國ニ對シ充分ニ

交渉スル理由アリ

内田全權 此ノ問題ニ關スル双方ノ意見ハ充分ニ言ヒ盡サレタリ然レトモ我が苦心ノ

點ヲ充分了解セラレサル如ク思フ只此問題ノミニ付テ見レハ撤兵ノコトモ容易ナル

カ如キ御考アラソモ此レハ歴史ニ就キテ考ヘラレタシ今回ノ戰爭ナクハ露兵ハ永遠

ニ滿洲ヲ占領スヘシ僅ニ日露兩國鐵道守備兵ノ一萬二萬位殘ルモノトハ大差アル間

題ナリ其一二萬ヲ留メ殘リハ撤退セシムルコトヲ爲シ得タルハ戰爭ノ結果ナリ戰爭

ナクソハ皆留ルナリ故ニ小村全權カ「ボイツマ」ニテ極力争ヒテ此事ヲ定メラレタル

ハ即チ貴國ノ爲メ争ハレタルナリ只今後共我方ニ於テ心配スルハ露國カ果シテ約束

通り撤兵スルヤ否ヤノ問題ナリ又露國ハ守備兵ヲ撤回スヘキ時機來リテモ果シテ守

備兵撤回ノ相談ニ應スルヤ否ヤニアリ此等ノコトニツキ安心ヲ得ルニハ貴國ノ力カ

發達セカレハ不可ナリ故ニ本案ハ我方ニ於テ苦心ノ結果提出セルナリ貴國ノ實力カ

發達セバ日本モ喜ソテ守備兵ヲ撤去セシメ若シ日露ノ戰爭カ繼續シ滿洲全土ヨリ露兵

ヲ驅逐シ得タリシナラソニハ日本ハ滿洲ニ一ノ露兵ヲ留メシメズ此場合ニハ日本ハ

貴國ノ實力アルコトヲ認メタラハ喜ソテ兵ヲ退ケシメソシ併シ今回ハ露國ヲ全ク退ク

ルコト能ハサルニ先ナテ戰爭終結シタルナリ其邊ノ事情ヲ考ヘラレハ只口ノ上
ノミニテ露兵ヲ退クルコトハ能ハサルヘシ其理由ヲ考察スリテ既ニ露國ヲ取極メル
ニモ拘ハラヌ可成貴方ノ趣意ヲ達セシメントシテ此案ヲ立テタル本員等苦心ノ程ヲ
考ヘラレタシ故ニ此ノ案ヲ基礎トシ熟慮ヲ乞フ
袁全權 只本件ニ就キ清國ハ擾ニ露國ニ向テ三千ノ巡捕ヲ置クコトサヘ承諾セカリシ
コト且此事ハ今日全國一般ノ考ニシテ此事ハ之レヲ以テ本全權等今回ノ交渉ノ主眼
トスル次第ニ付若シ此ノ案繼テスハ自然談判延引スヘシ本員等ノ大ニ苦ムトコロナ
リ故ニ此外ニ別ニ良法ヲ案出スルコトヲ得ス
小村男 我ハ先般來熟考ニ熟考ヲ加ヘテ日露條約ニ響カサル範圍ニ於テ貴方ノ趣意ヲ
立テ、日本ニ於テ鐵道守備兵ハ永久駐ムル希望ナク時機至ラハ撤退スヘシトノ案ヲ
立テシモノ故我方ニ於テハ此ノ以外ニ於テ妙案ナシ御熟考ノ上更ニ議スルコト、ス
ヘシ
内田全權 打明テ申サハ此點ニ重キ置カル、コトハ能ク承知スルコトニテ御照會ノコ
トモ小村大使ノ來ラル、前既ニ本國政府ニ電報ヲ置キ本國政府ニテモ研究ニ研究ヲ
加ヘ出來得ル丈ケ讓歩シテ立テタル案ナリ充分御考察ヲ乞フ
袁全權 兩全權ニ於テモ充分御諒察ヲ乞フハ若シ御提案ニ從フトキハ本員等ハ上皇太
后及皇帝陛下ニモ伏奏スルヲ得ヌ又下臣民ノ希望ニモ反スル次第故本員等ハ前案ヲ
維持スル外斷シテ途ナシ事情御諒察ヲ乞フ

(此時双方全權共誓シ歎キ)

小村男 全體貴全權等ハ日本カ大兵ヲ動カシ國運ヲ賭シテ漸ク成シ遂ケタルコトヲ只
單ニ席上ノ論ヲ以テ左右セラル、御意旨ナルヤ左様ノコトハ出來ス今迄ノ結果ヲ得
ザルハ日本カ國運ヲ賭シテ得タル効果ナリ御承知ヲ通り日露講和談判ニテ露國ハ守
備兵ノ數ヲ限ルコトヲ拒ミ守備兵ノ名ノ下ニ多クノ兵ヲ駐メントセラルナリ若シ守備
兵ノ數ヲ定ムスハ日本ハ斷然戰爭ヲ繼續スルノ決心ヲ以テ辛ラシメテ目的ヲ達セシメ
リ貴全權等ハ只單ニ席上ノ論ニテ之ヲ左右セントセラル、故到底話ニナラス
又只今貴全權ニ於テハ貴國提出ノ原案ヲ固持スル外策ナシト斷言セラレタリ果シテ
然ラハ日本全權ニ於テモ斷シテ貴全權ノ原案ニ同意スルコトヲ得スト云ハソ然ラハ
其結果ハ如何滿洲ニ於ケル鐵道守備兵ハ永久滿洲ニ駐リ日露兩國協議シテ講和條約
ノ條項ヲ變更スルノ機會全ク無クナルコト、ナル然ルトキハ日清兩國ノ不利益ナル
ヲ以テ相當ノ時機ニ於テ日露兩國ノ守備兵ヲ撤退セシムルコトニ付協議セシムルコト云フ
ナリ然ルニ貴全權原案ヲ固持スルノ外策ナシト云ハル、ニ於テハ鐵道守備兵ハ永久
ニ駐ムルノ外致方ナシ此レニ反シ我案ノ方法ニ出ヅルトキハ後日或時期ニ撤退ヲ實
行スルコトヲ得ト云フコトニナル或ハ貴國政府ハ日露講和條約ニ於テ日露兩國カ鐵
道守備兵ノコトヲ取極メタルモ清國政府ハ與リ知ラスト云ヒ又ハ清露兩國間ニ條約
ノ取極メテアリトノコトヲ理由トシテ露國ノ交渉スヘシト申サル、モ露國ハ此レ迄滿
洲撤兵ニ關シ滿洲還附條約ヲ取極メタル以來貴國ハ再三再四露ニ其實行ヲ督促セラ

シタルモ更ニ寸効ナク遂ニ日本ハ兵力ニ訴ヘテ露國ヲ擊退スルノ已ムチキニ至リ其結果爰ニ至リタルナリ此ノ歴史ヲ充分御會得テ其ガレハ話ニナラス日本カ國運ヲ賭シテ兵力ニ訴ヘテ徹セシタルト云フコト只席上ノ議論ニテ自己ノ欲スル儘ヲ言ヒ立ラルトハ霄壤ノ差アル故此事ハ切ニ了解アラシムトモ希望ス又若シ日本政府カ滿洲撤兵期限ノ十八ヶ月ニ代ヘ或ハ五年又ハ十年ト提議シ又ニキリシトルノ兵數十五名トアリシテ或ハ五十名又ハ百名ト提議スルニ於テハ露國ハ何時ニテモ喜ソテ直ニ同意スルナリ其點ハ能ク了解アルヘシ此點ニ就テハ日本カ露國ヲ抑ヘ居ルナリ日本ハ露國カ提出セル原議ニ對シテ極力壓迫ヲ加ヘテ我カ希望ヲ貫徹セルナリ斯クハ如ク日本ニ於テハ期限及兵數ノ増加ニ就テハ如何様トモ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ若シ日本ニ野心アラハ今ニ於テ講和條約ヲ變更シ更ニ撤兵期限ヲ五十年又ハ百年ト改訂シテ永ク滿洲ヲ占領スルコトヲ得ルモノナリ斯クノ如キ始末ナルヲ以テ貴全權ニ於テハ徒ラニ一問題ニ拘泥セズ廣ク大局ニ顧ミテ考ヘラレコトヲ希望ニ堪ヘサルナリ又地方ノ督撫或ハ有志者ノ意見ニテハ外國守備兵ヲ置カシムヘカラストノコトナル故困ルトノ御話アリ斯ルコトヲ云ハル、ナラハ我日本國民ノ希望ヲ云ヘハ日本ハ國運ヲ賭シ獨力以テ滿洲ニ於テ露國ノ侵略ヲ防カシカ爲メ數十萬ノ生靈ヲ犧牲ニ供シ辛クシテ目的ヲ貫徹セシナリ故ニ滿洲ニ於テ日本カ占領シタル地ハ其儘繼續保有スヘシト云フニアリ然ルニ我皇帝陛下並ニ政府ハ東亞ノ大局ニ顧ミ清國ニ對スル友誼ヲ重スルカ故ニ此ノ國民ノ希望ヲ容レヌ今回提出セルカ如キ條件位ニ止

B-0039

タルハ陛下及政府ノ深キ考ヨリ出ラタルコトナリ又本全權ハ双方共國民ノ希望如
 何ニ係ハラス穩當且ツ公平ナル基礎ヲ以テ妥協ヲ遂ゲンコトヲ希望シテ來清セルナ
 ル故ニ貴全權ニ於テモ以上陳述セル事情ヲ熟察シ僅ニ一問題ニ拘泥セズ廣ク全局ニ
 亘リテ考ヘラレ且此問題ニ就テハ貴國ニ於テ更ニ御評議アラシコトヲ希望ス
 袁全權 此ノ問題ハ清國ヨリスレハ頗ル重大ノ關係ヲ有スルモノニ付之ニ付キ如何ナ
 ル考ヲ立ツ以テ可ナルヤハ本全權等限リニ於テ回答スルヲ得ズ尙熟考ノ上明日御回
 答スルコトニスヘシ
 小村男 然ラハ明日トスベシ但シ只今最後ニ申上タル事トハ兩全權ニ於テ御考量ヲ
 タシ又此問題ニ對シ貴國ニ於テ重キヲ置カルハコトハ素ヨル本員等ニ於テモ能ク之
 ヲ知ル故決シテ無理ナルコトハ言ハヌ積リナレバ能ク御考慮ヲ乞フ
 袁全權 能ク了解セリ然レシ貴全權ニ於テモ能ク御諒察ヲ乞フ
 小村男 會議以外ニ聖大臣ニ御尋ヌヘシ鐵道以外ニ露國ハ吉林省ニ於テ何ヲ特權ヲ得
 タルコトアリヤ露國ハ何等特權ヲ得タルコトナキ旨日露條約ニ於テ明言セリ即チ總
 務ノ特權ハ皆放棄セシムヘキコトナルカスル特權ノ有無ハ何等外務部ニ取調ヘテリ
 ヤ露國ハ譚和談判中鐵道以外ニ何等ノ特權ナシト云ヘリ貴國ニ於テハ鐵道ノ外露國
 ニ何等取極メタルモノナキヤ取調ヘ付キ居ルヤ否ヤ
 袁全權 露國ハ鐵道以外ニ清國ヨリ何等ノ特權ヲ享有シタルコトナシト言ヒ居レルカ
 小村男 然リ然ル處鐵道以外ニ吉林省ニ於ケル鑛山等ノ特權ヲ有スル評判アリタルヲ

B-0039

以之「第一」ツマニテ此事ヲ露國ノ全權ニ尋キタルニ何等ノ特權ナシト答ヘタルヲ以テ其旨ヲ條約ニ明記セシメタルナリ果シテ無キヤ否ヤ外務部ニテ分リ居ルヤ御尋シタルナリ

置全權 善ク調フヘシ「鄒右丞」ニ向ヒテ尋キタルニ鄒ハ無シト答フ無シト云フコトナリ只鐵道附屬トシテ沿線三十里以内ノ鑛山ヲ要求セルモ許可セザリキ其他ニハ一切ナシ尙取調ノヘシ

小村男 尙御取調ヲ乞フ光緒二十七年ニ吉林將軍ト露國官吏トノ間ニ調印シタル吉林全省鑛山採掘權ノコトアルコト我方ニ知レ居リタルヲ以テ講和談判ノトキ此事ヲ露國全權ニ詰リタルニ露國全權ハ斯ル條約ハ政府ニ於テ全ク知ラスト云ヒ又若シアリトスレバ出先ノ官吏ヲ爲シタルコトニテ皇帝ノ裁可モナキニテ故効力ナシト斷言セ

置全權 「第一」ガナニ者ト約シタルモノアルガ之レニハ政府ニテ承諾ヲ與ヘス小村男 此露國全權斷言ノコトハ明カニ會議録ニアルコト故御參考ノ爲メ譯セシメテ貴方ニ呈セシ

午後六時五十五分散會

B-0039

附屬書第一號

清國全權提出追加條款第一ハ左ノ如ク修正スルコト

日本政府ハ清國カ滿洲ニ於ケル外國人ノ生命財産及企業ヲ完全ニ保護シ得ルニ至リ

タリト認ムル時ハ露國ト同時ニ其鐵道守備兵ヲ撤スルコト

附屬書第二號

中國全權大臣所擬増入條款之第二款擬改如左

俟届日本國政府認明中國將在滿洲地方之外國人命産以及各項事業均能保護完全時日

本國應與俄國同時將護路兵撤去

滿洲ニ關スル日清交渉談判筆記

第九回本會議

明治三十八年十二月二日午後三時十五分開會

列席者ハ前回ニ同シ慶親王ハ病氣欠席

小村男 本日ハ前回ニ引續キ鐵道守備隊ノコトヲ議セシ昨日ハ此事ニ就キ御熟考願ヒ置キシカ御考察成リシヤ

袁全權 本條ニ就キテハ貴兩全權ノ御説明ニ對シ我方ニ於ケル事情ト共ニ充分ニ討議ヲ盡シ御主意分明セリ貴政府ノ提案ニ對シ我政府ニ於テハ何等ノ讓歩スヘキ良法ヲ考出カス清露條約締結ノ際小村大臣ノ御主意モ亦内田公使ノ御勸告モ鐵道保護兵ヲ置カシムルコトニ同意スルハ不可ナリトノコトナリシ我方ニテハ今モ其御主意ヲ守ルノ外ナシ

小村男 其事ハ貴説ノ通りナリ併シ當時ハ滿洲ノ露兵ヲ總テ撤兵セシメテ事ヲ起カス精神ヲリシモ今日ノ形勢ハ大ニ異ナルリ即チ當時露國ハ貴國ノ抗議アルニ係ハラヌ依然大兵ヲ置キ遂ニ今回ノ戰ヲ惹起セシナリ故ニ戰爭ノ結果滿洲ノ地位一變セリ一度戰ヘハ二度戰フノ覺悟ヲ要ス日本ハ將來露國カ滿洲ニ事ヲ起サハ一回ニテモ二回ニテモ起テ戰ハサルヘカラス故ニ事アル時充分目的ヲ達スル機準備セサルヘカラカシルナリ從テ露國カ尙ホ滿洲ニ鐵道守備ノ兵ヲ駐ムル間日本モ之ヲ撤退スルコト能ハ

ス
此問題ハ只今袁全權ノ言ハル、通り双方充分議論ヲ盡シ其結果不幸ニシテ双方折
合ノ案成立セヌトアラハ此上ハ本案ヲ此儘トナシ置キ残りノ問題ニ關シテ
如何
（此時清國兩全權及唐ノ三人密談ス）
盟全權 本條ヲ此儘トナシ置キ残りノ問題ニ就キ討議スヘシトノコトハ異議ナシ只
應中シタキコトハ先日來本件ニ關シ慶親王ニ詳シク申上タリ慶親王モ本日ハ出席セ
シト欲セシモ長坐スルコトヲ得ズ遺憾ナカラ出席出來サルヲ以テ能ク自分ノ主旨ヲ
貴全權ニ傳ヘ吳レトノコトナリ即チ滿洲ニ關シテハ嘗テ貴國ノ御配慮ヲ受ケ滿洲還
附條約締結ノ際貴國ハ露兵ノ駐兵ヲ承諾セヌ様我方へ勸告セラレタリシナリ故ニ可
成今回ニ於テモ軍隊ヲ駐ムルコトヲ希望セサルナリ滿洲ニ關シテハ還附條約實行セ
ラレハル以來西太后及皇帝ニ於テモ頗ル御痛心アラセラレ日本ノ力ニ依リ今回多少
恢復スルコトヲ得タルニツキ深キ希望ヲ抱カル、ニ至レリ可成ハ滿洲ニ於テ外國ノ
兵ヲ駐メス危險ヲキ様爲リシコトヲ希望セラレ依テ先ツ貴國ノ厚情ニヨリ此事御承
諾ヲ得ハ露國ニ對シ駐兵ノ承諾ヲ與ヘサル様協議スルコトヲ得ルナラント考フ斯ク
シテ露國ニ當ルトキハ其時我方ノ理由ハ頗ル強クナルナリ故ニ願クハ上兩宮ノ痛心
セラレ、コト又下全國一般ノ希望トテ諒察セラレ御承諾アリタク之ヲ御承諾アルニ
於テハ兩宮モ安心セラレ、ニ付其邊ヲ御推察アリテ保護兵撤回ノ行ハル、機兩全權

ニ於テ考量アリタリコトナリ

小村男 慶親王ノ御主旨ハ能ク了解セリ且ツ一昨日兩全權ヨリモ話サレ其御主旨モ能

ク了解セリ然ルニ日本ハ貴全權ノ御提案ヲ其儘承諾スルコトハ到底出来兼ヌルナリ

其理由ハ露國トノ關係ヨリ來ルモノナルコト一昨日詳述セル次第ヲ又日本ノ折衷

案ニ對スル兩全權ノ御主旨ハ能ク明了シ議論ハ盡クセリ此上何カ折合付カサルヤ

ヲ考究スルノ外ナキ故貴全權ニ於テモ再ヒ何トカ充分ノ御考量ヲ乞ヒ又本員等ニ於

テモ充分考量スヘシ因テ更ニ充分ノ御考察ヲ願フコトニ致シ置キ次キノ問題ニ移ル

コト、シテハ如何

聖全權 本件ニ就テハ皇太后モ非常ニ御痛心アラセラレ殊ニ近來露國兵ノ舉動不穩ナ

ルコトニツキ一入痛心アラセラレ此事ハ固ヨリ露本國ノ關係ヨリ生ズルコトナルヘ

キモ只露兵ノ爲メ我地方ニ騷亂起リ人民ノ疾苦ヲ來スコトナルヲ以テ陛下モ憤ニ落

涙シテ苦惱アラセラレ日露兩國ニ於テ滿洲ニ殘スコト、ナル保護兵ノ數モ御尋アホ

之ニ對シテ兩國通算シテ三萬以上ト申上タルニ此大數ノ兵殘ルトキハ再ヒ今回ノ如

キ擾亂ナキヲ保シ難シホテ益々御痛心アラセラレ本員等ハ之ニ對シテ何共御答申上ル

コト能ハザリシ故ニ本員等ノ苦衷ヲ察セラレ何トカ好良ノ方法ヲ御考慮アラソコト

ヲ乞フ

小村男 先刻モ言フ如ク最早議論ハ盡キ此上ハ方法ヲ考究スル外ナキモ余好キ方法ヲ

シ故ニ我方ニ於テモ尙ホ能ク考量致シ置クニ付兩全權ニ於テモ充分御考量ヲ乞フ御

B-0039

主旨ハ能ク了解セルトコロナリ

盟全權 然ラハ懸案トシテ次ノ問題ニ入ルヘシ守備隊ノコトハ能ク考量致シ置クニ付
貴全權ニ於テモ我方ノ事情ニ就キ更ニ御考量ヲ乞フ

小村男 承知セリ

内田全權 次ハ貴國ノ追加條件第二條ニ入ルヘシ

袁全權 承知セリ

内田全權 便宜ノ爲メニツニ分テテ解釋セン即チ第一ハ日本軍カ戦争ニ就キ占領又ハ
使用シタル貴國公私ノ財産ヲ還附シ又ハ立退クコト第二ハ公私財産ヲ破壊若クハ擅

用シタルモノニ對シ賠償ヲ求メラレタルコト此二事項ヲ含ムコト、思考ス

袁全權 然リ

内田全權 然シテ戦争中ニ在リテ軍事上必要ノ爲メ公私ノ物件ヲ用ヒ又必要ノ場合ニ
ハ破壊スルコトハ固ヨリ當然ノ權利ナルコトハ云フ迄モナク貴國ニ於テモ認メラル

ルコト、思考ス先第一ヨリ申セハ我軍カ今回ノ戦争ヲ起スニ付尤モ重シタルハ軍紀

ヲ整肅ニスルコトニアリテ此目的ハ之ヲ達シ得タリ是レハ貴國モ認メラル、トコロ

ナルヘシ故ニ軍事必要以外ニ亘リ無益ニ公私ノ財産ヲ使用シ又ハ強占シタルコトナ

シ因テ今回ノ戦争ヲ終リテ占領ヲ解ク以上ハ悉ク貴國ニ還附スヘキハ言フ迄モナク

又占領ノ終結スル前ト雖モ無用ノ物ヲ保管スルノ意ナシ無論還附スル考ナリ

只玆ニ辯シ置キタキコトハ戦争カ止メハ直ニ總テノモノカ平時ニ復スト思ハル、ハ

間違ナリ。斯ノ如キ大軍ヲ動かシタル以上ハ撤兵カ完結スル迄ハ戦争状態カ繼續スヘキナリ。斯ノ大兵撤退セサル間ハ必要ノ部分ニハ戦時ノ状態尙ホ繼續スヘシ其邊ハ御了解ヲ乞フ

又後段ニ至リテ此ノ破壊若クハ擅用ニ對シ賠償ヲ求メラレタルハ先刻モ申ス通り我方ニ於テハ軍事ノ必要以外ニ物ヲ破壊シ又ハ強占シタルコトナシ此ハ全ク戦争中ノ權利ニヨリ戦争ノ用ニ供シタルニ止マリ此レニ對シテハ賠償ノ責ニ任スルヲ得ス故ニ第二項ノ御提案ニ對シテ當方ヨリ修正案ヲ作レリ

(此時内田全權ハ案ヲ袁全權ニ交附ス附屬書第一號第二號)

袁全權 今回貴國カ兵ヲ起サレタルニ就テハ其敵國ハ即チ露國ナリ而シテ本員ハ貴國カ戦地ニ在リテノ行動ヲ詳細承知スルナリ只今御話ノ軍事上ノ必要ヨリ民家又ハ政府ノ物件ヲ要セラル、コトニ就テハ地方官ニ於テ其供給ニ應セリ其以外ニ於テ軍事上必要ナキモノヲ占領セラレタルコトヲ知ル其レハ扱置キ軍事上必要ノ物件モ今日ハ既ニ撤兵ノ期ナルヲ以テ我カ望ム所ハ撤兵ノ地方ニ於テハ撤兵ニ隨テ此等物件ヲ逐次還附セラレタキコトナリ尤モ強テ還附ヲ求メ兵ヲシテ泊ルヘキ家ナク露天ニ駐テラシムヘシト云フニアラス又軍隊ノ必要上占領セラレタルコトハ已マテ得サルモ本員ノ主張スル擅取又ハ強占ト云フハ軍隊附屬ノ人ニ在リ夫等ノ人カ民家ヲ占領シテ返ヘカ、ル等ノコトアル次第ニテ末項ノ意アリテ損ズルトハ此等ヲ指シタルナリ例セハ材木ノ如キ内田公使ニ對シ屢々照會セルトコロニシテ其内軍隊ノ必要ニ基クモ

B-0039

アリ又日本ノ商人等カ強占シタルモアリ大體斯クノ如キ始末ニ付軍隊ニ就キテ申
ニ在ラス商人等ニ對スル事柄ニ付還附又ハ償還ヲ要求スルハ當然ナリト思考ス故ニ
本件ニ就テハ清國ヨリ委員ヲ派シ又貴國モ委員ヲ派シ立合ノ上取調ヘ果シテ斯ル事
實ナクハ實ニ幸福ナルモ若シアソリスレバ公平ニ賠償ヲ求ムヘキナリ又權利ト申ス
コトハ例セハ遼河沿岸ハ清國官吏ニ於テ之ヲ管理スルノ權アルモ開戰以來日本ノ官
吏ニ於テ管理ヲ行ヒ又新民屯奉天間ノ電線モ露軍スラ其占領當時之ヲ占領セカリシ
モ今回貴國ハ之ヲ占領セリ然レトモ既ニ軍事終リタルヲ以テ還附セラル、コト相當
ト考フ權利トハ此等ノコトナリ

内田全權 御主旨ハ能ク了解セリ軍事上ノ必要ノコトハ貴全權モ我主張ヲ認メラレタ
リ併シ軍事必要以外強占セリトノ御話アルモ之レハ今回ノ會議ニ於テハ一個人ノコ
トハ別問題ト致シタシニツ混同セハ討議カ混雜スルノミナラス會議ノ主旨ニ背クナ
リ個人ノコトハ本使カ屢ク照會ヲ受ケ居リテ此解決方法ハ後日公使又ハ領事ノ職權
ニテ取調フルコトヲ得ヘシ故ニ兩様ニ區別スル方宜シカルベシ

袁全權 抑モ清國公私ノ財産ニ對シテハ損害頗ル多シ材木ニ關スルコトノ如キモ昨日
現ニ多數ノ哀願アリタルカ今日ハ會議中ナルヲ以テ本員ヨリハ特ニ外務部ニ移牒セ
ス控ヘシメ置キタリ併シ此等ノ問題ハ可成早ク確定セスハ假令個人ノコト、スルモ
我方ハ頗ル多數ナル人民ノ願書ニ接シ居ルヲ以テ之ヲ差置クコト能ハス故ニ速ニ運
フ方法ヲ講セラレタシ本員等從來懇意ニセル貴國ノ官吏ト交渉スルモ少シク困難ナ

ルコトハ何レモ一年位ハ要スルナリ其他ノ小官吏ニ於テハ尙更解決ノ見込付カサル
カ故ニ速カニ取極ノ出来ルコトニ致シ度シ

内田全權 材木ノ事ハ度々御照會ニ接セリ故ニ本使ヨリハ其都度電報ヲ發シ貴國ノ趣
旨モ逐一報告セリ外務省ハ特ニ委員ヲ嶋緑江地方ニ派遣シ出来得ル限リ取調ヘテ弊
ヲ防キ今後モ同一ノ手續ヲ取ル筈ナリ只軍事上ノ必要ニ依ルコト、單ニ個人ニ關ス
ルコト、ハ混同スヘカラス只今袁全權ノ言ハレタルコトニ就テハ出来得ル丈ケ御協
議ニ應スヘシ

只一ツ特ニ御注意致シタキハ戰地ニ於ケル貴國官民ノ申出ニ付本員ノ知ルトコロニ
テハ中ニハ軍事ノ必要ニヨリ行ハレ軍事上ノ關係ニヨリ處置シ得ヘキ事柄ヲ官民等
カ熟知セスミテ平時ト同様ニ心得苦情ヲ申出ツルコトアリ其邊ハ貴方ノ官吏ニ於テ
平時ト戰時トチ區別シテ取調ヘラル、コト必要ナリ

袁全權 先キニ材木ノ件ハ内田公使ニモ甚ダ御心配ヲ掛ケ又非常ニ御手数數ヲ煩ハシ電
報ヲ發セラレ又小村大臣モ同様ニ特ニ人ヲ派シテ取調ヘラレタルハ本員ニ於テモ深
ク謝スル所ナリ然ルニ商人ヤ軍隊ハ最初ノ取極メ通リ實行セザルコトアリ之ヲ調査
スルニ撤兵以後ニナスコトハ尙ホ更ラ困難ナリ本文ニアル意アリテハ日本ノ商人
カ故意ニ占領シ又ハ使用シタルモノヲ云フ清國ノ人民ニ軍事上ノ必要ナリヤ否ヤ分
ラヌコトアリラシカレトモ亦日本人ノ故意ニ出タルモノアリ故ニ公平ニ兩國ノ委員ニテ
取調ヘタシト云フニアリ然レバ材木事件ノ如キ撤兵後トスルテハ決シテ明瞭ナラカ

ルコト、ナルナラシ今日ノ時機ヲ以テ取調ラレハ明瞭ナルヘシ
將來滿洲地方ハ兩國ニテ彼我提携シテ爲スヘキコト多ク又單ニ兩國ノ政府ノミナラ
ス人民等モ提携セサルヘカラス故ニ清國ノ人民ヲシテ日本人ヲ恐レシムルコトハ堪
タ得策ナラス

内田全權 材木ノコトハ今ニ於テ取調ヘスハ撤兵後ハ出來ヌトノ御懸念ナルモ我軍ニ
ハ一々詳細ナル帳簿アリ故ニ交代アルトモ何人カ後任トナリ取調ラレモ明瞭ナレハ
懸念ノ要ナシ却テ昨今ノ如キ混雜中ヨリモ後日ノ方明瞭ナラシ尤モ昨今差掛リ居ル
材木等ノコトハ御照會アル毎ニ報告シテ處分方ヲ政府ニ仰キ居レリ此ハ可成協商ス
ルコト、スヘシ只此事ヲ條文ニ掲クルコトハ承諾出來ス

袁全權 末段ヲ條約中ニ入ルコトハ不體裁ナリトノ故ヲ以テ御承諾ナキカラハ之ニ修
正ヲ加ヘテ會議録中ニ留メテ如何

内田全權 材木ノ件ノ如キハ既ニ問題トナリ居リテ日本ヨリモ拒絕セザリシコトナレ
ハ既ニ解決ノ方法付キ居ルヲ以テ特ニ會議録中ニ存スルノ必要モナカルヘシ

袁全權 材木ノ件ノミナラハ宜シキモ其他ニ日露講和成立後安東縣ニテ日本人民カ民
家ヲ千間餘リ壞テ又富有家屋ヲ破壞セリ故ニ單ニ一材木事件ノミニアラカルナリ

内田全權 其事モ照會ニ接シ目下取調ヲ照會シ置キタリ萬事此方法ニテ軍隊以外ノ事
ハ一々ノ場合ニ如何様ニモ協議スルコトヲ得ルナリ

小村男 内田全權ノ申カル、通り軍事以外ノコトニ付苦情アルハ是迄モ貴方ノ御照會

B-0039

ニ對シ外務省ハ勿論軍事當局者ニ於テモ出來得ル限り取調ヘ處置ヲ執リツ、アリ戰
争中ニ於テスラ然リ將來ハ無論ナリ又滿洲ハ將來兩國相提携シ又兩國人民モ提携シ
テ事業ヲ進メサルヘカラス故ニ日本ハ紛擾ノ問題起ル毎ニ一々事實問題トシテ解決
スル考ナリ此精神ハ戰爭中モ然リ平和克復後モ無論其通りナリ今更改メテ此事ヲ取
極ムル必要ナシ萬一御照會ニ對シ管ヲ拒絕セシナラハ今ニ於テ此ノ御希望モ必要
ルヘシト雖モ本員ノ知ル所ニテハ是迄モ穩便ニ次スルコトヲ務メ今後モ務メテ解決
ニ務ムヘキナリ故ニ今更改メテ取極ムル必要ナキノミナラス若シ取極ムルトキハ如何
ニモ日本政府ニ於テ等閑ニ附シ置キタルカ如クニシテ不都合ナリ故ニ我提出ノ修正
案ノミニ止メラレタシ

袁全權 日本政府及内田公使カ盡力ノコトモ能ク諒知セリ併シナカラ從來軍事上ニ關
スル事ハ殆ソト落着シタルコトナク被害人民ヨリハ屢々地方官ニ訴願スルモ地方官
ハ何レ片ヲ付クルニ付暫ク忍耐スヘシト申付ケ之ヲ答メツ、アリ故ニ最早今日トナ
リテハ政府モ地方官モ何トカ方法ヲ付ケサルハ人民ニ對シテ宜シカラス又人民等モ
貴大使ノ來清ヲ聞キ其名望ヲ慕ヒ訴願ノ爲メ來ルモノ多キ故何トカ方法ヲ取極メタ
シ故ニ我方ノ此案ヲ會議録ニ記入シ置キタシ

小村男 御主旨ハ充分ニ了解セリ然シナカラ既ニ其方法開ケ居ルナレハ其等ノ苦情ハ
相當ノ調査ヲナシタル後處分スルコト、ナサレ今更改メテ解決ノ途ヲ開クコトニア
ラス今後モ事件アル毎ニ一々解決スル考ナリ

袁全權 此度ノ會議ハ要スルニ滿洲善後策ヲ講スルノ主義ナリ我方ヨリ見レハ本策モ
矢張り善後事件ノ一部分トシテ取極ムル必要アリ又人民等モ日本ヨリ大使來リタル
コト故充分ノ希望ヲ抱キ居ベリ然ルニ何モ取極カレハ大ニ失望スルナリ又我等モ人
民ノ希望ヲ満足セシメタシ從來斯様ノ案件中解決セルコトハ實ニ十中ノ一二ニ過キ
ス故ニ人民ノ希望ヲ安心セシムルニハ本件ヲ照會文若クハ會議録ニ記載スルモ宜シ
只人民ニ對シ是レ丈ケノ方法ヲ以テ目的ヲ達セリト云フコトヲ得ハ充分ナリ
小村男 一體本件ハ實ニ小問題ナリ故ニ滿洲善後處分ニ關聯シテ議スヘキモノニ非ス
滿洲善後處分トハ斯ル事ニテラヌ滿洲ヲ如何ニシテ保全スヘキヤニ在リ然ルニ斯カ
ル小問題ヲ提出セラル、ハ更ニ其意ヲ得ズ直ニ撤回アラシコトヲ希望スルナリ併
シ出來得ル限リ折合ヲ付ケル望ミニ付御希望ヲ容レテ折衷案ヲ出シタリ全體滿洲處
分ノ大問題ニ對シテ此小問題ヲ提議セラレタルハ其意ヲ得サルコトナルモ御希望モ
フルコトニ付折衷案ヲ出シ御希望ノ一部ヲ容レタルナリ是レニテ折合ヲ付ケラレザ
シ
袁全權 善後處分ニ關シテモ民心ヲ安ソスルハ大ナル關係ヲ有ス若シ人心カ日本ニ反
スルトキハ將來何事ニモ影響ヲ及ホスヘシ故ニ人心ヲ安スルハ必要ナリト云フナリ
就テハ末段ノトコロハ別ニ方法ヲ定メテ會議録ニ存スルヒモハ宜シカルヘシ要スル
ニ民心ヲ安スルノ方サヘ立タハ可ナリ何トカ方法ヲ立ツル様願フ
小村男 然ラハ本策ハ新シキ問題ニアラス從來ノ方法ニ依レハ差支ナシ故ニ御照會ヲ

ヲ直ニ相當ニ處分スヘシトノコトヲ記入スルナラハ即チ現在ノ方法ヲ會議録ニ書キ置クコトナレハ我方ニ差支ナシ
袁全權 今日迄ハ内田公使ニ御面倒チカケタレトモ其効無キヲ以テ人民ヨリ苦情アリテ寸效ナシ

内田全權 其事ニ就テハ御照會ニ對スル我方ノ回答ヲ見ラルヘシ中ニハ苦情ヲ成立セ

スモアリ例ヘハ支拂金カ少ナシ等ノコトハ實ニ無理ナルナリ我ニハ一定ノ公價アリテ之ヲ喜テ受ケタルモテリ又受ケカサルモノハ苦情ナシナリ又袁全權カ滿洲ノ人心

云々ノコトヲ申サレタルカ予ノ知レル所ニ依レハ木材ニ關スル出願者ハ多數天津ニテリテ直接ニ袁總督ニ出願スルニ依ルナルヘシ本使ハ御照會以外ノコトハ知ラス其

他ニモ何歟御照會アルヘキコトアラハ喜テ交渉ニ應スヘシ又管チ木材ノコトニ就キ外務部ヨリ御内談アリタル時本使ハ先ツ滿洲ニ於ケル日露兩國ヨリ被ムリタル損害

ヲ取調ラヘシト述ヘ置ケリ然シテ貴方ニ於テ調ヘラレタルニ露軍ヨリ被ムリタル損害ハ多キモ日本ハ少シト云ハレタリ其レハ事實ナルヘシ木材ノ損害ニ就テハ現ニ處

分ノ途ヲ開キテ此ニ對シテハ可成貴國民ノ苦情ヲキ様盡力スヘシ御心配ノ要ナシ袁全權 本員ニ於テハ貴國ノ主旨ヲ只承リ置クノミニテハ空ニシテ因却ス何カ據所アリ

記録ニ認メ置キタル兎モ角本案ハ清國ニ於テ置キテ置キ貴國トテモ森林及漁業權ニ總テ重キヲ置キ條約ニ記載セシト云ハル、如ク我國モ商權ニ關シテ重キヲ置ク因

テ會議録中ニテ宜シキニ付兎モ角此事ヲ留メ置キタル

小村男 只今モ申シタル通り軍事必要以外ノコトハ從來ノ通りノ途ニ依リ處分スヘシ

ト會議録ニ留ズ置クヘシ

袁全權 大ニ我意ト異リ居ルナリ

(此時袁全權ハ何か書キ居レリ)

瞿全權 軍隊ヨリ被ムレル被害處分ノコトモ取極メ置キタシ

(鄭書記官ハ瞿全權ニ對シ小村男ノ話ヲ誤解セル旨ヲ説明セリ)

袁全權 貴全權ノ修正案ニ就キ改ムヘシ宜シキヤ

小村男 宜シ

(袁全權ハ修正ノ上小村大使ヘ交附セリ)此修正案ハ協議ノ結果廢案トナリタル時清國

全權委員ハ撤回セルヲ以テ記録ニ存セズ)

小村全權 此未文ニ撤兵ノ時ハ陸續清國官民ニ還ヘス若シ軍隊カ撤退スル以前尙ホ依

然必要アルモノハ地方官ト公平ニ扱フトアリ此意義分明ナラス

(小村男ハ之ヲ述ヘタル後此事ヲ質問スヘキカト内田全權ニ計ル内田全權此質問ヲ通

辯スヘキ旨鄭書記官ニ命ズ)

袁全權 其意義タル例ヘハ遼陽ニハ二個師團アリ其内一個師團ハ撤兵スルトモハ殘部

ハ半數トナルヲ以テ半數ノ家屋ハ空トナルナリ此殘留スルモノニ對シテ尙ホ家屋ノ

必要アリトスレバ殘リ一師團ヲ執レニ住セシメ執レノ家ヲ還ス等ノ點ニ就キ地方官

ト相談スト云フコトナリ

小村男 然ラハ前段ハ撤兵ノ時ハ公私ノ財産ヲ返還シ又其後段ハ撤兵前ト雖モ既ニ不用ニ歸シタルモノハ返還スヘシトノ意カ

袁全權 撤兵前ト雖モ我方ニ必要アリテ貴軍カ不用ニ歸シタルモノハ返還セラレタシ

ト云フニ在リ然レトモ貴方ノ軍ニ必要アルヲ強テ還ヘカレタシト云フニ非ス即チ地

方官ト協議シテ公平ニ計ラヒタシト云フナリ

小村男 此書方ニテハ撤兵ノ時ニハ不要ニ屬スルモノ、ミ貴國官民ニ還スノ意ニシテ

不要ニ屬セサルモノハ何時迄モ還ヘサ、ルモ宜シト云フコト、ナルニアラスヤ

袁全權 然ラハ如何ニ修正セハ宜シキヤ

小村男 貴案ニテハ左様ニナル故撤兵ノ時ハ無論悉ク官民ニ還スナリ撤兵前ハ現ニ日

本軍カ占領セル内不要ノ分ノミヲ還ヘスヘク撤兵ノ時ハ不要ニ屬スルト否トチ問ハ

ス返還スヘシ故ニ其文句ヲ改メサルヘカラス即チ前段ノ不用ニ屬スルモノ「ヲ除キ第

二段ニ於テ撤兵前ト雖モ不用ニ屬スルモノハ還ヘス」ト斯ク變更スルヲ要ス

(此時唐ハ小村男ニ英語ニテ講和條約中露國ノ聲明ノ意義ヲ質問ス小村男之ニ答フ)

小村男 此ノ書方ニテハ大差アリ本員ノ述ヘタルコトハ此主意ナリトテ案ヲ渡ス撤兵

前ニ還スコトハ實際出來ス

袁全權 我方ノ案ハ貴方ノ案ニ重複セル所アル故重複セサル様書キタルナリ

内田全權 否重複セズ原則ハ撤兵以前ナリ貴方ノ案ハ主客顛倒ナリ

袁全權 全文ハ斯ク改メタリ未段ニ偷云々ノ文句ヲ入レラレタシ

小村男 此レハ矛盾スヘシ不要ノモノハ撤兵前ト雖モ還附ストアル故此ヲ入ルレハ主
意カ矛盾スヘシ

袁全權 貴方ノ案ニテハ必要不必要ノ區別清國官吏ニ明瞭セサルコト、ナル此丈グ入
レレハ明瞭ナリ然ラハ我方ニテ誤解スヘシ

小村男 左様ノコトハナシ要スルニ軍隊ノ判斷ニヨルモノニシテ他ヨリ干渉スルヲ得
サルモノナリ又若シ新ニ必要ヲ生シ今迄占領シタルコトナキモノヲ占領スルコトヲ

要スルコトアラハ隨時相談スルコト、ナスヘキモ既ニ占領セルモノニ對シ其還否云
々ヲ他ヨリ容喙スルコトハ甚ダ宜シカラズ軍隊ノ怒ヲ買ヒ始末ニ窮スルコトアルヘ

袁全權 無論公平ニ商議スヘシト云フコト故軍隊カ承知セスト云ハ、夫レ迄ナラスヤ
小村男 然ラハ尙更無用ナリ軍隊ハ是迄モ既ニ地方官ト相談シテ公平ニ爲シ居ルナリ

若シ斯クノ如キコトヲ畫カハ軍隊ハ怒リテ撤兵セスト云フヤモ知レズ

袁全權 例セハ奉天ノ如キ大山元帥カ引上ケタルモ尙ホ多クノ官衙ヲ占領スルカ如キ
コトアラハ如何大山元帥カ引上ケルモ矢張三人五人ツ、分配セラレハ結局還附出

來ルモ一處ニマツレバ還附スルトモ差支ナキコトナリ

小村男 左様ナル場合ニ地方官カ干渉スルハ宜シカラズ軍隊ハ感情ニ銳キモノ故甚不
可ナリ日本政府ハ不用ノ時ニ至ラハ還附スト云フコトニナシ置ケハ可ナリ之レニ信

用セラレタシ夫レニ外部ヨリ干渉スルハ宜シカラズ末項ヲ入ルレハ今迄占領セルモ

ノモ悉ク地方官ト相談スルニアラサレハ占領ヲ持續シ難シト解釋スヘシ之ハ不便ニテ断シテ不可ナリ斯ルコトハ軍隊ノ感情ヲ害スル話ナリ

袁全權 餘リ議論セサルヘシ貴説ニ從ヒ末段ヲ削ルヘシ

小村男 左様願ヒタシ文章ハ宜シキ様改メラレタシ

(此時山座局長ヨリ文中ノ地方ト云フ義ニ就キ質問シタルニ)

袁全權 家アル土地ハ財産ト云ヒ家ナキ土地ハ地方ト云フナリ

小村男 權利トイヘハ無形ノモノナリ無形ノモノハ占領スルコトヲ得ス財産ナル語ノ

意義ハ廣キモノ故土地モ有形ノ權利モ山林等モ總テ含まナリ

袁全權 權利ナルコトハ例ヘハ遼河ノ例ニヨルハ人民カ利用スル權又ハ官吏カ之ヲ管

轄スル權等アリテ總テ無形ナルモ現在日本軍カ之ヲ占有スルニ付清國ニテハ用ユル

ヲ得ス故ニ無形ト雖モ占領シ得ヘキ權利アルニアラスヤ

(唐ハ 'Suzerain' ノ意義ナリト説明ス)

袁全權 又例ヘハ新政府等ニテ日本官吏ハ船税等ヲ徴收セリ此權ハ還附セラレタシ

小村男 撤兵ノ時ト云フコトカ

袁全權 然ラス軍事ハ已ニ終リタルヲ以テ日露ノ和議成立セラル以上ハ速ニ返サル、ガ

當然ナリ

小村男 收税ノコト亦一種ノ財産ナリ撤兵ノ時返ヘスヘシ要スルニ財産以外ニ返ヘス

ヘキモノナシ無形ノモノヲ占領スルコトハ能ハサルコトナリ

袁全權 貴全權ノ權利トハ如何ナル意義ナリヤ

小村男 日本軍ハ所謂權利ナルモノヲ占領セス權利トハ無形ノモノナリ官民ノ權利ハ

占領ス居ラス占領セルモノハ有形ノ財産ナリ

袁全權 財産以外ニ於テ滿洲ニ於ケル人民ノ爲スヘキコト官吏ノ爲スヘキコト等ヲ日

本軍カ差留メタルコトアリ

小村男 夫レハ撤兵シテ占領ヲ解ケハ最早致方ナキコト、ナルニ非スヤ結局自然ニ消

滅スルモノナリ軍事上ノ必要ニヨリ占領シ又ハ占有スルモノハ有形ノ財産ヨリ外ニ

ナシ

袁全權 貴國ト露國ト取極メタル講和條約第三條ノ末項ニ全ク清國ノ專屬行政ニ返

シテ清國ノ治理ニ置クトアリ夫等ハ即チ我カ權利ト云フ所ノモノナリ我カ意味ト錯

雜セリ

(此時唐侍郎ハ英文ニテ認メタルモノヲ小村男ニ渡セリ男ハ一覽ノ上袁全權ニ返セ

リ此時袁全權ハ漢文ヲ訂正ノ上小村男ニ交附シ小村男是ニテ宜シト答ヘ該案決定

セリ滿洲ニ關スル日清條約附屬協約第四條ノ條文)

小村男 次ニ議事録ニ載スルコトハ貴方ノ案ヲ改メ最前ヨリ申上タル主意ニ依リ斯様

致シタシ

(此時小村男ハ修正案ヲ渡ス本問題ニ關スル書類モ最終ノ決定案ノ外存在セス)

内田全權 軍隊ニ關スル人トシテハ日本ニテハ軍屬ナル官吏アリ是ハ皆軍人ト同様ニ

取扱ヲ以テ誤解ノ虞アリ又零星ノ商民ナル語アリ斯カル文字ハ我國ニテ用ヰズ帝
國臣民トセハ皆含ムコト、ナルヲ以テ宜シ

袁全權 不法ノ行爲トハ餘リ廣キニ過キ彈キ意味トナラヌヤ

小村男 貴國ニテハ斬罪ニ處スル場合ニ用ユルヘシ

愷全權 然リ義和團ノ如シ臣民ト書クニハ及バス單ニ本國人トシテハ如何

(此時袁全權ハ案文ヲ訂正シツ、アリ)

内田全權 何か適當ノ文字ナキヤ

袁全權 貴方ニテハ之ヲ書キ置クハ體裁宜シカラストノ意ナルヘシ

内田全權 何か體裁ノヨキ文句ナキヤ

愷全權 會議録中ナレハ差支ナカルヘシ外國人ノミナラヌ清國人中ニモ見セサルナリ

(此時不法ノ字義ニ付小村男ハ英語ニテ唐會辦ニ話セリ)

小村男 「故意ニ損壞シニテ宜シカルヘシ

袁全權 兩國委員ヲ派遣スルコト、スヘキヤ

内田全權 夫レハ必要ナルヘシ既ニ取調フトセハ宜シ御主旨ノ次第ハ其場合ニ決ス

ルコトヲ得ヘキ自然ノ結果ナリ

(此時彼我字義ニ付相談アリ)

小村男 是ニテ決定セリ(決議案附屬書第三號)

内田全權 時モ大分移リタレハ之レニテ止ムテハ如何

附屬書第一號

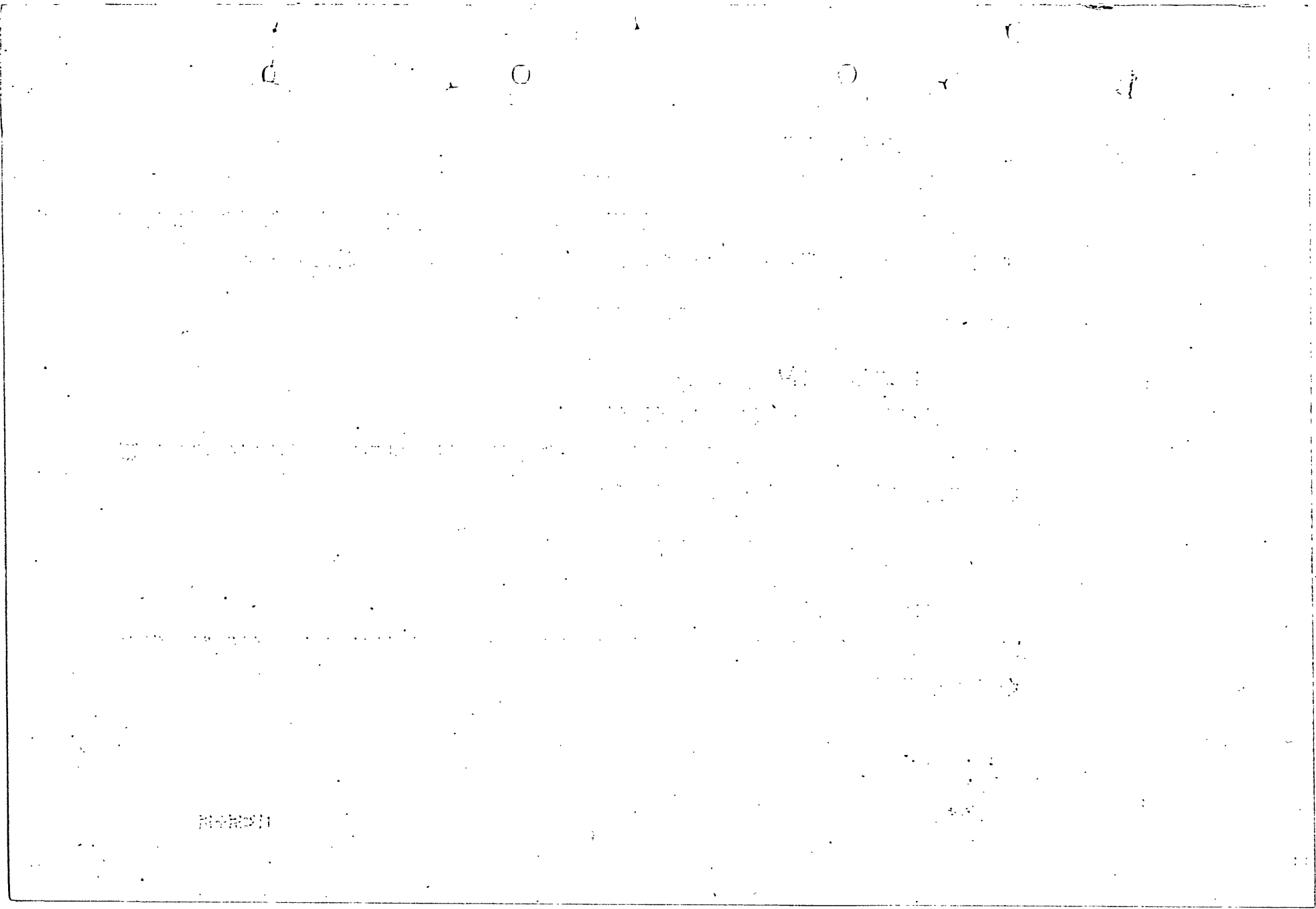
清國全權提出追加條款第二ハ左ノ如ク修正スルコト
日本政府ハ軍事上ノ必要ニ依リ其滿洲ニ於テ占領又ハ收用セル清國公私財産中不用
ニ歸スルモノハ撤兵前ト雖モ之ヲ清國官民ニ還附スルコトヲ承認スルコト

附屬書第二號

中國全權大臣所擬增入條款之第二款擬改如左
日本國政府尤因軍務上所需曾經在滿洲地方佔領或佔用之中國公私各產內其屬無須
備用者即在撤兵以前亦可交還中國官民接受

附屬書第三號

凡軍用必需以外所有日本臣民若有有意損壞取用中國官民各項產業應由兩國政府查明乘公
分別飭令補還



B-0039



滿洲ニ關スル日清交渉談判筆記

第十回本會議

明治三十八年十二月三日午後三時七分開會

列席者ハ前回ニ同シ慶親王ハ病氣欠席

小村男 昨日ハ第二條ヲ終リタルニツキ本日ハ第三條ヲ議スヘシ

袁全權 第二條ハ昨日既ニ取極メタルモ削除シテ新ニ文字ヲ加ヘタル處ニハ尙我方ニ

於テ完全ナラヌト認ムル點アルニ付更ニ追加セト欲ス

昨日定メタルタルケン文字ヲ加ヘタルノミニサハ都合悪シ又削除ノ分モ充分意味貫徹

セス(此ノ時草案ヲ小村男ニ渡ス(附屬書第一號))

小村男 昨日確定シタル案ハ既ニ確定文トシテ政府ニ電報セリ更ニ文案ヲ改ムルハ甚

困難ナリ

袁全權 増加案ハ貴方ニ於テモ同様六ヶ條ヲ提出セラレタリ我ニ於テモ意味ノ盡サ、

ルトコロアルニツキ更ニ加ヘタシ但シ此案ハ本日議スルニテラニ能ク御考慮ヲ願ヒ

置クコト、シテ他條ニ移ラシ此案ノコトハ無論日露講和條約ニヨリ生セル結果ナリ

袁全權 第三條ニ移ルニ就テハ只今提出シタル此提案ニ付更ニ考量ヲ乞ヒタキコトハ

昨日ノ協定ニ於テ權利ノ二文字ヲ取去ラレタル故第二條ノ本主義ヲ失シタルコト是

ナリ

小村男 第三條ニ就キ申述フヘシ日本軍カ占領セル地方ニ於テ安寧秩序ヲ維持スルハ當然ナリ之ハ日本軍ノ責任ナリ占領ヲ解カサル以上ハ日本軍ニ於テ保護ノ責アリ然ルニ占領地方ヲ一時ニ撤退スル事ハ事實ニ於テ出来サルナリ北ヨリ南ニ漸次撤退スルナリ故ニ數個ノ期限ニ別テ又ニ地方ニ地方ニ別テ撤退スルナリ其ノ撤退ノ場合ハ其ノ都度貴國政府ニ通知スヘシ撤退セサル地方ハ其ノ地方ノ安寧秩序ヲ保護スルハ軍隊ノ責ナリ撤退シタル時ハ其ノ都度貴方ヘ通知スヘキニ付該地方ニハ貴國軍隊ヲ直ニ派シ其ノ責ニ任セラルヘシ第三條ニ就キ只今ノ主旨ニ基キ修正案ヲ作レリ御覽ヲ乞フ

小村男ハ修正案ヲ清國全權ニ交附ス(附屬書第二號第三號)

攫全權 自分ノ考ニテハ清國ノ軍隊ハ日本軍隊ノ居ル處ニ行クト云フニアラス日本軍ノ居ラサル處ニ土匪等ノ起ル場合ニ之ヲ討伐スル爲ニ派遣セソト欲スルナリ

袁全權 我方ハ日本軍駐屯ノ處ヘ遣ハカソトノ主意ニアラス若シ討伐隊ヲ派遣シタル場合ニ日本軍ト接近セハ行違アルニ付互ニ通知セムト云フニ在リ

小村男 今ノ占領地ニハ入ラス御主旨ニヤ又占領地ト雖モ日本軍ノ居ラス處ヘハ派遣スル御希望ニヤ

袁全權 占領地内ト雖空隙アル處ニハ派遣スルナリ

小村男 其レハ不可ナリ占領ヲ解カサル地方ハ假令ヒ兵ノ居ラサル處ニテモ日本軍ノ責任ナルヲ以テ之レハ承諾出来ズ撤兵ノ時ハ通知スヘシ然カモセサル時ハ衝突ノ虞レ

B-0039

アリ如何ナル間違ヲ生スルヤモ知レヌ故ニ此ノ修正案ヲ出セルナリ

袁全權 然ラハ占領ノ區域トハ如何

小村男 地圖ニ依リテ御覽ニ入ルヘシ

袁全權 清國ニテハ吉林黑龍江等ノ地方ニ土匪アル時ハ派兵スルコトヲ得ルナリ獨

奉天ニシテ之カ出來ヌトハ如何貴國ハ露國程我ヲ信用セラレザルガ

小村男 露國ノコトハ知ラス多分其事ハ吉林黑龍江等ニ於ケル露國ノ占領地以外ナ

ヘシ占領地ヘハ決シテ入ル、コトナシ

今茲ニ占領區域ノ圖ナキニ付明日持參シテ説明スヘシ

袁全權 兩國戰爭中ハ占領地アルヘキモ既ニ和議成立セルトキハ占領ノコトナカル

シ兵アラハ占領ト見ルヘキモ兵ナキトコロハ占領ト見做スヲ得ス講和條約第三條第

二項ニ於テハ清國ノ治理云々トアル以上ハ戰爭濟メハ我方ニ於テ之ヲ治理スルコト

ヲ當然トス

小村男 其レハ然ラス前日來申ス通り露國カ果シテ撤兵ヲ實行スルヤ否ヤヲ觀ザルヘ

カラス故ニ講和盤ヘトモ直ニ占領ヲ解クコト能ハス之ヲ以テ兩國間撤兵ノコトヲ取

極メテ實行ス即チ双方共漸次軍隊ヲ退クルナリ其ノ軍隊ヲ撤退シ終ル迄ハ矢張戰爭

中ト同様ナリ然シテ其ノ撤兵ハ一地方一地方ツ、行フ故其ノ撤兵ヲ完了シタル地方

ハ其ノ場合ニ通知スヘシ斯クシテ貴方ニ選附スルナリ講和條約成リタリトテ直ニ占

領解ケタリトシテ貴國ノ兵ヲ入ル、コト、セハ軍隊ノ動キカ附カス故ニ承諾スルコ

不能ハサルコトナリ

袁全權 其レニテハ日露條約ノ規定ト意義異ルカ如シ

小村男 否今日即此ノ條約ノ規定ヲ實行中ニ在リテ十八ヶ月ヲ經カレバ日露共此實行

ヲ完了セサルナリ

袁全權 日露講和條約第三條第二項ニ租借地ヲ除キテ兩國共ニ滿洲ヲ全然清國ノ行政

ニ還附スニアリ

小村男 然リ然レトモ其ノ前項ニ於テ撤兵ハ追加條款ノ規定ニヨリ之ヲ行フコト、ナ

リ居レリ直ナニ行フト云フコトニアラス

小村男唐侍耶ニ *This article is governed by the additional article* ト説明ス

袁全權ハ條約成立ト同時ニ直ニ行フコト、思ハル、ヤ

袁全權 然リ條約調印サレタル日ヨリ行政ハ選ハサル、モノト解セリ

小村男 然ラス左様入コトハ事實行ハレサルコトナリ五十萬モ兵ヲ動カスニ左様急ニ

ハ行カス夫レハ別款ニヨリテ行フナリ第三條ハ其ノ原則ヲ定メ其ノ實行方法ハ別款

ニ依ルヘキモノナリ故ニ此ノ二項ヲ合併シテ御講究ナラスハ明瞭ナラス

袁全權 此レハ我方ニ於テ解釋ノ誤レルモノアルコトヲ知リタル故能ク研究致スコト

スヘシ然ルニ我方ニ於テハ占領區域トハ如何ナリヤモ分明ナラス和議ノ成立後既

ニ二ヶ月トナリテ占領ハ如何ニナリタルヤ兎モ角貴國軍隊ノ占領區域ヲ知ル爲メ圖

ヲ拜見シタシ

小村男 承知セリソレヲ明カニスル爲メ明日持参スヘシ次ハ第四條ナリ第四條ニ提案セラレタル礦物ノコトハ必要ナシ鐵道ニ附屬スルハ本條約第六款ノ但書ニ在リ之ニ關シテ彼我兩國ニ協議ヲ要スルコトアリハ我提出第六款但書ニヨリテ之ヲ披ラコトヲ得故ニ本項ハ必要ナシ既ニ討議ノ上決定セルコトナリ

袁全權 鐵道附屬ノ鑛山ハ種々錯雜シ居リ政府ノ明カニ許可シタルモノアリ又個人ノ合同ニ依ルモノアリ又ハ内々從事セルモノアリ現ニ一個所ノ如キハ清國ノ資本ハ十萬圓露國ノ資本ハ五六萬圓ニテ着手セルモ元金ノ多寡ニ關シテ種々行違チ生セリ故ニ能ク取極メ置カサレハ將來非常ノ面倒チ生スヘシ

小村男 其レハ貴説ノ通リナレトモ第六條ノ但書ニ依リ披ヒテ可ナリ礦物ノコトハ此レニ附屬スル問題ナレハナリ

袁全權 此レハ將來兩國トモ面倒チ起スヘシ露國ノ時々既ニ許シタル鑛山ハ之ヲ取扱フニ六條ノ規定ニテ可ナリ其レ以上ノコトハ如何ナル方法ニテ披フヤチ定メ置ク方宜シカサルヘシ

小村男 日本ハ鐵道ニ附屬スル鑛山ノ外何等ノ關係ナシ

内田全權 東清鐵道條約ノ續約第四條ニ採掘方法ヲ取極メアレハ結局地方官ト協議決定スヘキモノナリ

故ニ只今此事ヲ議スルモ空論トナルナリ矢張第六款但書ニ基ク方宜シカサルヘシ

(此時漢文ノ東清鐵道條約ヲ出シテ清國全權ニ示ス)

堀全權 沿線三十里外ニ亘ル鑛山ハ如何ニスヘキヤハ附屬ノ約束ニアラトモ此條約集ニハ無シ

小村男 其附屬ノ約束ハ當方ニ無キ故寫ヲ貰フコトハ出来ヌヤ
盟全權 只今持參セヌ

堀全權 鑛物ノコトハ實ハ非常ニ込入レリ故ニ第四條ノ主意ニ依リ面倒ノ起ラヌ様定
ジタシ

小村男 當方モ其主意ナリ夫レハ第六條ノ但書ニ依リ扱ハントスルナリ何レニセヨ本
席ニテ定ムルヲ得ヌ或ハ貴方モ當方ト同様ノ考ナリト思フ將來入コトハ誤解ナキ様

第六條但書ノ通り相談スルトノ意思ヲ會議録ニ認ムルコトダケハ宜シカルヘシ
内田全權 要スルニ今日細目ニ亘リ議スルモ實地ヲ知ラカルトキハ出来ヌ事柄ナリ故
ニ大綱タテ議シ置ケハ細目ハ將來議スルモ差支ナカルヘシ

袁全權 然シ無論大體ノコトナリ

小村男 然リ

袁全權 然ラハ此意味ニ基キ會議録ニ記シテハ如何此ノ時記入事項ノ案ヲ提出セリ附
屬書第四號

小村男 此ノ意味ヲ會議録ニ存シ置キ誤解ヲ避クルコトハ差支ナシ唯之ヲ條約ニ載ス
ルコトハ既ニ第六條ニテ定ムタルコトアル故差支アリト云ヒタルナリ
内田全權 此レハ本條約第六條ニ含まレタル話ニテ條約ニ入ル、ハ重複スレバナリ

小村男 只今暹大臣ノ申カレタル鐵道沿線三十里以外ノ礦物ノコトニツキ別約アリト
ノコトハ如何ナルモソカアレコトカ
暹全權 其レハ約束ニアラヌ清國政府ヨリ露國ニ對シテ辯明駁論シタルモソナリ大體
ノ主意ハ三十里以内ハ勿論ナルモ三十里以外ニハ及ハスト云フコトヲ認メタルモノ
ナリ明日外務部ニ於テ其ノ案ヲ抄シ持參スヘシ

小村男 次ハ第五條ナリ之レモ必要ナシ之レハ滿洲ニ於テ已ニ開市場ト定リ未タ實際
開市ニテアラサルトコロト又ハ新ニ開市スヘキ各地方ニ於ケル居留地ノコトハ既ニ決
定セリ即奉天安東縣ノ如ク既ニ開市ト定マリ居リテ未タ實行ニ至ラサル處ハ貴國政
府關係國政府ト協定シテ定ムルコトハナリ居レリ又新ニ開カレ、開市場ノ居留地ハ
貴國政府ニテ定ムル其ノ章程ハ在北京日本公使ニ御相談アルヘキコト、定マリ居レハ
此ノ必要ナカルヘシ

暹全權 然ラス本條ノ主意ハ即チ既開市場トシテハ營口ノ如キヲ云ヒ又未開市場ハ安
東縣ノ如キヲ云フ營口ハ貴國兵力ニテ占領シ同地ニ於テ或ル土地ノ如キ已ニ貴國人
ノ占領ニ歸シタルモノアリ又安東縣ニモ貴國人ノ占領セル土地ハ六七千畝アリ此レ
ハ未ダ如何ニスヘキヤヲ決定セルモノニアラサル故此ノ事ヲ取極メソト欲スルナリ
小村男 其レハ條約ニヨリ居留地ヲ設ケラル、コト故條約ニ依リ協定セサルヘカラス
今爰ニ云フ必要ナシ安東縣ノ居留地ノコトハ貴國政府ト日本政府ト協定スルコト、
現行條約ニテ取極メアリ

B-0039

袁全權 然レトモ土地ノ如キハ貴國ノ兵力ニテ強占セルニテ條約ニ依リ取極メタルニ
 アラス更ニ協定ヲ要スル旨聲明シ置カント欲スルナリ
 小村男 然リ撤兵スレハ兵力ナクナルヲ以テ兩國間ニ取極ムルコトヲ得ルナリ
 袁全權 其事ヲ聲明シ置キタシ
 小村男 夫レハ現行條約ニテ極リ居ルニ付再ヒ條約ニ認ムルコトハ不可ナリ只其ノ主
 旨ヲ會議録ニ入ルコトハ宜シキモ特ニ條文ニスル必要ナシ
 袁全權 本員ハ現ニ貴國カ條約ニ違反セルコトヲ條約文ニ認メ置キタキモ斯ク明記ス
 ルコトハ穩ナラサルニ付漠然ト記載シ置ケリ若シ會議録ニ入ル、トセハ尙明瞭ニ記
 載シタシ
 小村男 是ニテ明瞭ナリ新開未開ノ各居留地ノコトハ貴國ト協議セサルヲ得ス時機來
 リナハ必ス協議スヘシ此事ハ條約ニテ既ニ定キレルコトナリ之ニテ充分ニアラスヤ
 袁全權 現ニ日本ハノ爲シ居ルコトハ條約違反ナリ
 小村男 其レハ占領ノ力ニテ爲シ居ルコトニテ居留地ヲ設クルヤ否トハ別問題ナリ居
 留地ノコトハ占領ヲ解キタル後ノコトナリ今日ハ居留地ナシ條約ニヨリ他日貴國ト
 協定セスハ居留地ハ出來サルナリ
 袁全權 現ニ日本人カ家屋土地ヲ買収シ或ハ家屋ヲ建テ、將來ノ準備ヲ爲シツ、アリ
 小村男 夫レハ占領中ノ事柄ニシテ其レニヨリ居留地ハ出來ス軍事占領ノ行爲ナリ故
 ニ居留地ヲ設クルコトハ條約ニヨリ兩國政府協定シテ定ムルナリ營口安東縣ニ居留

地ヲ設ケル場合ニハ兩國ニテ協商スヘシト會議錄ニ存記セハ將來ノ誤解ヲ防グヲ得
衰全權 例ハ貴國人カ土地ヲ強買シ又ハ買入レタルモノモアリ又ハ占領セルモノモアリ
此等ハ假令ビ買ヒタルモノニテモ返ストカ又ハ戻ストカ定ムルコトヲ得ルニアラス
ヤ

小村男 夫レハ居留地設定問題ノ時定ヤルコトニテ何處ヲ居留地トナスヤヲ協議シタ
ル上ナラテハ何共云フコトヲ得ス今云フノ要ナシ

衰全權 然ラハ斯様ニ會議錄ニ明記スヘシ例ヘハ現ニ日本人カ強買又ハ占領若クハ買
入レタル地カ居留地區劃内ニ入ラサルトキハ將來之ヲ返還スト明記シタシ

小村男 夫レハ細目ナリ將來居留地設定ノ時定ゾテ可ナルニアラスヤ

内田全權 元來戰爭ノ爲メ條約ノ効力カ中止セラレ占領解カルトキハ條約カ再ビ効
力ヲ恢復ス之レハ當然ノコトナリ其ノ時ニ至リ戰爭中ノ事柄ハ協定スヘキコトハス

ヘシ其ノ協定ノ法ハ例セハ某ノ土地ハ無理ニ取リタルモノカ又ハ正當ニ買取リタル
モノカ證文アリヤ否ヤ又ハ居留地境界外ナリヤ内ナリヤ若シ居留地外トナルトキハ

如何スヘキカ等ハ兩國ノ委員カ商議スヘキモノニテ此等ハ今日到底議シ得ヘキモノ
ニアラス

衰全權 聯合軍ノ時ノ例ヲ言ハシニ彼時ハ無論清國ト各國トノ交際絶ヘタルノ時ナリ
然レトモ居留地ノ取扱ハ双方委員ヲ派シテ協商ノ上取扱マタリ今日ハ警口ノ如キ軍

事ノ爲メ貴軍ニ貸シタルモ兩國ノ友誼ハ尙存スルナリ然ルニ貴國人カ自由ニ強占スルノ行爲ハ聯合軍ノ時ヨリモ甚ク

小村男 夫レハ先刻ヨリ屢々云フ如ク將來貴國ト協議シテ定ムヘシ決シテ無理勝手カコトハナサスト再三述ヘタリ

袁全權 故ニ條約ニ書ケハ此ノ機ニ漠然タル大意ヲ記入スニキモ若シ會議録ニ入ルナラハ詳細ニ致シ置キタシ

小村男 其ノ必要ハナシ大體判然セリ居留地ハ兩國ガ協議セズハ出來サルナリ故ニ若シ會議録ニ載スルナラハ營口及安東縣等ノ居留地ハ條約ニ照シ兩國政府ニ於テ協議

設定スヘシト記セハ宜シカラズヤ

内田全權 只今天津居留地ノコトヲ申サレタリ然ルニ今回ノ分モ天津ノ例ト異ナルナリ天津モ總督カ來任セラレテ初メ伊集院總領事ト議シテ定メタリ今度モ同様ニ我

ハ將來可成速ニ議シタキナリ聯合軍ノトキハ友情ヲ有シ今回ハ然ラスト云フコトナシ故ニ此度聯合軍以上ニ無理ヲ云フナト、考ベラルハ宜敷カラズ

袁全權 天津居留地ノコトハ未ダ天津ノ引渡ヲ受ケヌ前ヨリ話ヲ始メタリ

内田全權 又此度トラモ事宜ニ依リテハ占領中ヨリ相談ヲ始ムルヤモ知レズ

袁全權 例セハ奉天安東縣等ハ清國自ラ開クヘキモノナルニ若シ貴國カ獨占シタル處ヲ以テ居留地トカストセハ他外國人ヨリ先取權ヲ行ヒタルモノト見做サレ貴國ノ名

聞ニ關スルニアラズヤ

小村男 然ラス之レハ當然ノコトニテ左様ゾコトナシ
 内田全權 何レ協定シテ設タルト云フコト故貴國ノ自開ト云フコトニ差支ナシ若シ協
 定セザレバ獨占等ノ批難アルモ然ラサル以上ハ決シテ差支ナキコトナリ
 袁全權 現在ニ在リテハ安東縣ニ於テ商業ヲ爲シ居ルハ日本人ノシテシテ他國人ニ於
 テハ出來サルナリ
 小村男 夫レハ占領地ナルカ故ナリ他國人ニ許スコトヲ得ヌ此事ハ當然ノコト故未ダ
 昔テ何レモ苦情ヲ申込シタルコトヲ其ノ理由ハ各國ニ明白ナル故ナリ
 (此ノ時袁全權ハ會議録記入事項案ヲ覆全權等ト合議セリ)
 袁全權 只今認ズ居ルニ付第六條ニ移リテハ如何
 内田全權 第六條ニ入ルヘシ此ノ案ハ營口ニ貴國ノ地方官ヲ赴任セシメタシトコト
 ナルモ日本軍カ同地ヲ占領セル當時此ノ事ニ付御照會アリタルニ依リ訓令ニ依リ本
 使ヨリ御回答ヲ爲シ置ケリ此回答ノ主意ハ同地ヲ還附セサル以上ハ依然トシテ同様
 ナリ即營口ハ軍事行動ニ對シ必要ノ地點ナリ此ノ場所ヘ貴國官吏ヲ入ル、コト能ハ
 サル理由ハ前ニ充分述ヘ置キタリ露國ノ占領中モ清國地方官ヲ拒ミタルコトモ同様
 ノ理由ニシテ今日未ダ滿洲ノ撤兵ヲ終ラサル以上ハ營口ハ軍隊輸送上重大ナル關係
 ヲ有スルカ故ニ貴國地方官ノ駐在ヲ許スコト能ハス然レトモ可成貴國ノ御便宜ヲ計
 ルノ精神ナルニ付種々研究ノ末可成貴國ノ主意ニ應スルノ主旨ヲ以テ修正案ヲ作レ
 リ御覽ヲ乞フ

(此時内田全權ハ修正案ヲ袁ニ交附ス附屬書第五號第六號)

袁全權 本員ノ記憶スルトコロニテハ以前此事ニ關シ我方ヨリ爲シタル照會ニ對スル

御回答ニハ日本軍ハ今ヤ僅ニ遼陽ニ進ミタルノミニテ營口ハ軍事上重要ナレハ追テ

還附ノ協商ニ應スヘシトノ意味ナリシ當時ノ情況ト今日ノ情況トハ異リ日本軍ハ既

ニ開原鐵嶺迄進ミ居ルナリ元來露國ハ永遠ニ占領シテ清國ニ還附セス故ニ日本ハ之

ヲ詰問シテ開戦ノ一原因トナリタルナリ今日ハ其レト事情異ナルハ貴國ノ文明主義

ニ對シテモ還附セラレ、コト當然ナラスヤ

内田全權 御話シカ大ニ相違シ居レリ元來本件ハ營口ニ赴ク地方官ノコトニテ土地ノ

還附トハ別問題ナリ

袁全權 次シテ然ラズ即チ地方官カ赴任セハ土地モ還ヘサル、コトト思フ即チ同様ノ

結果ナリ

内田全權 然ラハ貴方ニテハ營口ノ還附ヲ求メラル、ヤ

袁全權 然リ

内田全權 其レナラハ主義大ニ異ナレリ斯クノ如クソハ修正案ヲ出スノ要ナシ營口ハ

占領中或方ニ取リ最必要ニシテ之レハ明白ニ地圖ニテ示サシ此地方ノ還附ヲ求メラ

ル、モ其ノ周圍未ダ還附セサル内營口ノミ還ヘスト云フコトハ到底出來サルコトナ

リ營口ノ還附ト云フ御主意ナルハ話カ全ク違フ

袁全權 軍務ノ二字ハ戦争ノ意ナリ戰時ナレハ軍務ノ必要モアラベカ軍事終リタル以

上ハ營口ハ戰地ト距離モ遠ク其ノ占領ノ要ナカラルベシ
内田全權 軍職ニ在ル貴總督ニ申ス迄モナキコトナカク戰爭終リタリト雖モ營口ハ依
然トシテ其ノ必要ヲ認ムルナリ該地カ撤兵ニ大ナル必要アルコトハ何人モ認ムル所
ナリ撤兵全ク了ル迄ハ從來ト同様ナリ和議成立後ハ直ニ平常ニ復スルト認ズラレ
コトガ抑誤解ノ元ナリ之ニハ十八ヶ月ヲ經テ撤兵後始メテ効力ヲ生スルモノト見做
スヘキコトナリ之レハ講和條約ノ全部ヲ通シテ熟讀セラレハ明瞭ナルコトナリ其
間ハ戰爭中モ撤兵スル時期モ同一ナリ

袁全權 講和條約ハ調印ノ時直ニ實行ノ効力ヲ生スルモノナラスヤ
内田全權 然リ其ノ時ヨリ初メテ實行ノ効力ヲ生シ十八ヶ月ヲ經テ撤兵行ハル即完了
ノ時機ヲ俟ツヘキモノナリ條約ノ効力ハ批准ノ日ヨリ起ルヘキモ夫ヨリ實行ノ手續
ヲ初メ十八ヶ月撤兵後ニ於テ始メテ全部行ハルコト、ナルナリ
袁全權 然ラハ一例ヲ申サソ日露講和條約第一條兩國平和ノコト第二條日本カ朝鮮ニ
卓絶ノ權利ヲ有スルコト又ハ露國カ滿洲ニテ獨占權ヲ放棄スルコト等ハ矢張十八ヶ
月ヲ經カレバ効力ヲ生セサルモノニヤ
内田全權 其レハ總督ノ質問トハ認メラレス
小村男 之レハ第三條ニ就キテ失禮ナカラ貴方ニ誤解アリ此ノ講和條約ハ本員自ラ協
定ニ當リテ能ク知ルコト故明カニナシ置カント欲ス此ノ十五ヶ條ノ内調印批准ノ後
直ニ實行スヘキモノアリ又直ニ實行出來サルモノアリ其ノ區別アルコトヲ了解セ

B-0039

ラレハ本會議ノ進行上甚妨アリ之ハ貴方ニ根本ノ誤解アリ直ニ實行出來ル
コトハ批准ノ時ヨリ既ニ實行シツ、アルナリ直ニ實行シ得サルコトニ對シテハ明文
ヲ以テ其ノ期限ヲ定メタルナリ即第三條ハ直ニ實行出來サルニ付別款ヲ以テ十八ケ
月内ニ總テ完了スト期限ヲ定メタリ故ニ批准交換後十八ケ月ヲ以テ終ルコトニ付特
ニ別約ヲ定メタリ斯様ナコトヲ明ニ了解セラレハ大ニ會議ノ進行ニ妨ケアリ
袁全權 條約ノ解釋ノコトハ此レ限リトナシ再ヒ論セサルヘシ營口ハ管テ清國ノ照會
ニ對スル貴國ノ回答ハ今ヤ日本軍ハ漸ク遼陽ニ達シタルニ過キサルハ戰況進ミタル
上ハ追テ協商スヘシトコトナリ然ルニ今日ハ既ニ日軍奉天ヨリ開原鐵嶺ニ達シ
タルヲ以テ當時ト其ノ情況ヲ異ニス故ニ營口ヲ還附セラル、ハ當然ナリ然ラズシハ
最初ノ御主旨カ違フニアラスヤ
内田全權 本使ヨリノ照答書ヲ持參セラレシヤ
袁全權 持參セス
内田全權 左様ノ主旨ニテ御答ヘセシミアラス露國ノ行ヒタル權利ハ日本又當然之ヲ
行フノ權アリト申セリ決シテ戰況進ハ直ニ還メテ回答セリトハ記憶セス
小村男 土地ノ還附ト行政ノ還附トハ大ニ差アリ土地ノ還附ハ撤兵ニシテ撤兵問題ニ
於テ定メタリ行政還附ハ別問題故占領中ト雖還附スルヲ得ルニ付其ノ差別ヲ御承知
アラベコトヲ乞フ此ノ案ハ行政權一部ノ還附ト云フコトニ解釋致シタルナリ若シ土
地ノ還附トアラハ撤兵ト云フコトニテ之ハ撤兵問題ニテ決定セルコトナリ今更相談

スル必要ナシ然レ三 只今貴全權ノ御話ニ依テハ貴方ノ主意ハ土地ノ還附ト推察セラレ然ラハ御主旨カ違フ故御相談ニ應スルコトヲ得ズ撤兵ノコトハ他ノ一般ノ撤兵問題ト同一ニテ警口ノミノコトニアラズ行政還附ナラハ御相談スルヲ得ヘシ

袁全權 能ク明瞭トナレリ宛ニ角實際ヲ申サハ警口ハ封河ノ時期モアラコト故其ノ時期ニ至ラハ警口ハ不用トナリ軍隊ノ送還線路ハ旅順大連ニ出ツルモ宜敷カルヘシ故ニ可成貴國ノ厚誼ヲ以テ便宜法ヲ研究セラルベク貴國ノ提案ニハ可成速ニトアルモ三日間モ速ニト云フヲ得ヘク一年間モ撤兵期ヨリモ速ナルニ相違ナシ此ノ點ヲ御協議致シタシ

小村男 撤兵ハ一二ヶ月間ニ完了スルモノニアラズ來春ハ又此ノ遼河ニ依リ船舶ヲ利用シ警口ヲ經テ還送セラルヘカラズ此ノ大輸送ハ非常ノ時日ヲ要ス何時頃終ルヤハ今ヨリ定メ難シ此ノ案ノ精神ハ可成貴國ノ希望ヲ容レタル積ナリ其ノ期限ヲ定ムルコト及方法等ハ追テ協議セシ今如何スヘキヤハ政府ト雖モ定ムル能ハス之レハ大輸送如何ニ關係スルコトナリ

袁全權 例ヘハ遼陽奉天等ニハ貴國ノ軍隊モアラリ又我地方官モアラリテ何等ノ妨害ナシ只今貴全權ハ土地ノ還附ト行政還附ト異ナリト申サレタルニ付撤兵ハ撤兵トシ地方行政ノコトハ別ニ話ヲ爲スコトヲ得故ニ地方官カ行キテ事務ヲ執ルル次ケハ警口モ宜シカラズヤ

小村男 奉天遼陽ノ如キ内地ト警口トハ大ニ異ナリ居レリ日本ノ大軍在ル間警口ハ軍

二番半三

B-0039

隊ノ安全ヲ圖ルカ爲メ必要ナリ營口ヨリハ露軍ヨリモ恐ルルニキ敵侵入スルナリ之ヲ
有効ニ防カサルヘカラス即惡疫ノ如キヲ云フ先日モ「エストリア」タルカ僅ニ七人ニテ
撲滅セルハ我方ニ於テ實ニ全力ヲ注キタルニ因ル萬一軍隊及軍政官カ全力ヲ盡カ
リセハ病毒内地ニ入り軍隊ハ勿論貴國人民モ非常ノ禍ヲ被ムルナラシ故ニ營口
ハ奉天遼陽ト事情ヲ異ニスルコトヲ察セラレタシ
故ニ此ノ案ヲ御採用ナラハ撤兵以前ト雖貴國官吏ヲ派遣スルコトヲ得ルコトニナル
ナリ若シ御採用ナラス此儘ニ爲シ置クトキハ日本ニテモ撤兵迄ハ承諾スルコト能ハ
ス故ニ此案定ラハ可成速ニ兩國政府ニテ協議シ撤兵以前ニ於テ地方官ノ來ルヘキ期
限ヲ定メ又其ノ方法等例セハ惡疫ノ場合ハ如何ニモハ宜敷ヤ等ハ協議スヘシ御採用
ナラスハ撤兵前ハ貴國官吏赴任スルコト能ハサルナリ
袁全權、貴全權ハ營口ハ軍隊行動ノ關係上後路トシテ緊要ナリト云ハレタルモ安東縣
ノ如キモ矢張り軍隊撤退ノ途ニ當リ後路トシテ必要ナリ而モ安東縣ニハ從來ノ清國
地方官アリ同様ノ地位ニ在リナカライ一方ニハ地方官アリ他方ニハ無シト云フコトニ
ナルニアラスヤ我方ノ案ニシテ御採用ニナラサルナラハ貴方ノ案ヲ土臺トシテ相談
セシニ惡疫ノ事等ハ我地方官ニ於テ極力撲滅ニ盡カスヘシ又其レニテモ充分ナラス
ハ相當ノ醫師ヲ雇ヒ合同シテ防疫ニ盡カスルコト、取極ムルモ差支ナキニアラスヤ
只時期ノ事明ナラサルハ困ル故貴全權ノ御提案ニ撤兵前速ニトアルモ十七ヶ月ニテ
モ撤兵以前ニシテ速ニト云フコトヲ得ヘク三ヶ月ニテモ以前ナリ又一ヶ月モ三日モ

以前ナリ此レハ期限ナキト同様ナリ故ニ何レノ時ト云フコトヲ大體定メ貴方ノ提案ニヨリ協議スルコト、致シタシ
小村男 時期ヲ定ムルコトハ只今ニ於テ出来サルナリ之レハ軍隊ノ輸送ニ大關係アリ
政府ニ於テ之ヲ定ムルコトハ斷然出来サルナリ之レハ本條約定アリタル後兩國ニテ
協議シテ定ムヘキコトナリ今定ムルコトハ事實出来サル事ナリ今漸ク大輸送ヲ初
タルノミナレバ政府ニ於テモ見當付カス條約締結後充分御相談スヘシ
内田全權 安東縣及内地ニ地方官アリ營口ニ無シトノ御話アリタルカ此レニ就テハ其
ノ區別ヲ説明スヘシ夫レハ他ノ所ト營口トハ歴史カ異ナリ居レリ營口ハ露國カ占領
地方官ヲ逐ヒ除キ地方官ナキ處ヲ日本カ取りタルナリ即歴史カ特別ナリ他地方ニハ
從來地方官アリシナリ又營口ハ實際輸送上非常ニ重要ニシテ只今安東縣又ハ大連旅
順ノ途ヲ執ルモ宜敷云々ノ御話アリタレトモ左スレハ十八ヶ月ニテ撤兵ヲ了ラサル
ヤモ知レズ海運ノ輸送力ノ強大ナルコトハ明白ニシテ總テノモノ營口ヨリ出入ス未
タ大軍ノ駐在セル間ハ入ルモノモ出スモノモ皆營口ニ依ル即一方ハ大石橋一方ハ水
利一方ハ新民線ヲ利用スルニ此ノ三方ノ要ニ當レルハ即營口ニシテ最重要ノ地ナリ
斯ル處ヘ今新ニ地方官ヲ派セラレ、トキハ我軍人ト衝突スルノ基トナルニ付我方ニ
於テ最初此ノ修正案ヲ提出スルニ就テモ餘程躊躇セシカ折角ノ御希望ニ付可成之ニ
應セムカ爲便宜折衷ヲ出セルナリ若シ彼衝突ニテモ惹起サハ兩國ノ交誼ヲ害ス
ルノ端ヲ啓クヘシ此邊ノ事理ヲ明白ニ了解セラレタシ

哀全權 小村全權ヲ御説明ニテ明瞭トナリタル故土地還附ノ事ハ申サ、ルヘシ然シ地
方官ヲ派シ地方行政ニ當ルコトハ奉天遼陽ト同シキニ付差支ナキニ非スヤ之レハ軍
隊ノ送還ニ何等不都合無シト考テ又内田全權ハ占領シテ地方官ヲ斥ケタリト
申カレタルカ之レハ露國カ最獨占的野蠻不法ノ行爲ヲ爲ス國柄ナル故斯ルコトヲ爲
セシモ貴國ハ義ニ依リ事ヲ起シ文明的ノ舉動ヲ爲サル、國柄故必スシモ露國ノ如ク
獨占等ヲ爲サル、譯ニハアラカルヘシ故ニ此等ノ事ハ御相談出來ルニ非スヤ又清國
ヨリ官吏ヲ派スルモ日本ハ軍政官ヲ置ケルニツキ撤兵上何等妨害ナキニアラスヤ又
我方ニテハ最適當ノ地方官ヲ選拔派遣スヘキニ付貴國軍政官ト何等衝突ナカルヘシ
時期ハ我方ニ於テハ平和成立ノ今日ハ既ニ還附ヲ受クル時機ナリト思考スカレトモ
今ハ還附ト云フニアラス地方官ノミ派シテ事務ヲ執ラシメント云フナリ
小村男 時期ノ問題ハ日本政府ニ於テモ定ムルコト能ハサルノ理由ハ先刻モ歴陳ヘタ
ル通りナリ軍隊輸送ノ關係上事實定ムルヲ得ス今輸送ヲ始メタルノミナレハ今少シ
經カレバ時期ヲ定ムルコト能ハス大輸送實行中ハ營口ハ最重要ナル故今日迄地方官
カ在リシナラハ宛ニ角新ニ派遣シテ營口ノ位地及制度ヲ變更スルコトハ到底承諾出
來カルナリ又此問題タル若シ露國ナラハ初ヨリ斯ル協議ニ應ゼス其儘ニシテ居據ル
ヘシ日本ハ斯ル事ハ爲カス兩國ノ交誼上ヨリ御協議ニ應シ我提出ノ如キ修正案ヲ出
セルナリ若シ貴全權カ本員ノ修正案ヲ御承諾ナラストアレバ修正案ヲ撤シ此儘ニ致
シ置クヘシ左スレバ撤兵迄ハ貴國地方官ハ赴任スルコト能ハスト云フコト、ナル若

此ノ通り定マテハ本員歸國ノ後貴國ノ主旨ヲ説明シ軍隊輸送ノコトヲ取調ヘ其筋
ト相當ノ相談ヲ爲シ適當ノ時期ニ赴任期限ヲ定ムルコト、ナサシ又貴國地方官ノ來
ル以上ハ衛生ノコトハ如何ニスヘキヤモ商議スヘシ然ラズシテ今此處ニテ判然定
メント主張セラル、ナラハ本員ハ出來スト申スノ外ナキニ付此儘ト致シ置キ修正案
ヲ撤スヘシ然ルトキハ撤兵ノ期ニ至ル迄ハ協議ノ餘地ナキコト、ナルヘシ

袁全權 營口還附ニ就テハ露國ト光緒二十八年ニ條約ヲ締結セルトキモ期限ヲ定メタ
リ只實行セザリシノミ即時期ハ遼西ハ六個月ト定メアリタルナリ實際ノコトヲ云ヘ
ハ日本カ營口ヲ占領セラレタルニ就テハ還附セラルヘキ時期アルコトヲ營口ノ人民
一般及弼廷モ希望セリ然ルニ期限モ定ラストアリテハ困難ニ付本案ニ對スル我方ノ
回答ハ明日トスヘシ

小村男 只一言云フコトアリ今御話ノ露國カ滿洲還附ノ時期ヲ定メタルコトハ全部ノ
撤退時期ヲ定メタルナリ即撤兵ノ結果營口ヲ自然還附スルナリ決シテ特ニ營口還附
ノ時期ヲ定メタルニ非ス今度日本ハ撤兵ノ時期十八ヶ月ト定マリアレトモ其ノ前ニ
於テ地方官派遣ノコトヲ特ニ協議セソト云フニアリテ其ノ時期ハ本員等モ政府モ定
ムルコト能ハサルニ付追テ御相談スルコト、致スヘシト提案シタル次第ニテ露國ノ
協合トハ大ニ異レリ誤解セラレタル様ニ付特ニ一言御注意致シ置クヘシ

袁全權 貴國政府ニ於テモ此ノ時期ヲ定ムルコト能ハス又貴全權モ判シ難シトノコ
トナラハ滿洲撤兵ヲ司レル人ニハ分リ居ルヘキニ付其ノ方ヘ電報ヲテ聞合サル、コ
二百七十五

トハ出来サルヤ
 小村男 夫レハ不可能ナリ 滿洲軍武官モ今漸ク輸送ヲ開始セル際ニ付誰トテ見込附カ
 ス故ニ本案ノ如ク大體ノ基礎ヲ定メ置キ他日撤兵前ニ改メテ御相談スルコト、ナシ
 置クヘシ此レヨリ他ニハ途ナキナリ
 袁全權 只營口ノ土民等ハ日露講和成立セハ營口ハ直ニ還附アルヘシト一般ニ期シタ
 ルコトナリ然ルニ今日期限スラ定ムルコトヲ得ストセハ意外ニ思フヘシ本員等ニ於
 テハ直ニ貴案承諾ノ旨ヲ決答スルコト出来ヌ熟考ノ後明日御回答ヲ爲スヘシ
 小村男 承知セリ明日御回答ヲ承ラソ
 袁全權 第五條ノ會議録記入事項ハ此ニ定メタリ之ニ對スル御意見ハ明日承ルコト、
 ナカソ
 (此時第五條ニ關スル會議録記入事項草案ヲ小村男ニ交附セリ(附屬書第七號))
 内田全權 營口ハ還カスト云フニアラス無論還ヘストハ定マリ居ルナリ又露國トハ
 場合カ異ナリ露國ハ北方ニ退クモノニシテ日本ハ北方ヨリ營口ノ方ヘ退クナリ
 小村男 本口ノ議論ハ撤兵前ニ營口ヘ貴國官吏ヲ派スルヲ得ルヤ否ヤノ問題ナリ撤兵
 スレハ當然貴國ノ權ニ歸スルカ以テ官吏ヲ派セラレ、コトハ勿論ノコト撤兵スレハ
 土地モ行政モ貴國ニ還カル、ナリ本日ハ撤兵前ノコトヲ御相談スルト云フコトナリ
 此ノ點ハ誤解無キ様御承知ヲ乞フ
 袁全權 能ク了知セリ元來營口ニハ道臺モアリシコトナルニ今ハ日本ノ占領セル爲他

B-0039

地方ニハ地方官アリテ管口ノミニハ無キヲ以テ同様ニ致シ置キタシト云テ意旨ナリ
尙能ク御熟考ヲ乞フ我方ニテハ明日回答セシ

小村男 能ク了解セリ

袁全權 本日バ他ニ招待ヲ受ケ居リソレニ往カサルヘカラス是迄諸方ヨリ種々招待ヲ
受ケタレトモ孰レモ會議ノ故ヲ以テ辭シ來レリ本日ノ分ハ是非共往カサルヘカラガ
ルニ付會議ハ是迄ト致シ度シ

小村男 會議ヲ止ムル話ナレバ何時ニテモ一致スヘシ(坐大笑)

袁全權 然ラハ明日占領地ノ圖ヲ貰ヒタシ

小村男 承知セリ

(午後六時五分散會)

B-0039

附屬書第一號
中國全權大臣擬追加一欸

日本國政府允飭在滿洲所有日本臣民斷不干預中國地方官吏全然自行治理之權並切實尊重中國臣民公私產業權

附屬書第二號

清國全權提出追加條款第三ハ左ノ如ク修正スルコト

日本政府ハ滿洲ニ於テ撤兵ヲ了シタル地方ハ直ニ之ヲ清國政府ニ通知スヘク清國政府ハ日露講和條約追加約款ニ規定セル撤兵期限内ト雖モ既ニ上記ノ如ク撤兵完了ノ通知ヲ得タル各地方ニハ自ラ其安寧秩序ヲ維持スル爲メ必要ノ軍隊ヲ派遣シ得ルコト

附屬書第三號

中國全權大臣所擬增入條款第三款擬改如左

日本國軍隊一經由東三省某地方撤退日本國政府應隨即將該地名知會中國政府雖在俄和約續加條款所訂之撤兵限期以內即如上段所開一准知會日本軍隊撤畢則中國政府可

得在各該地方酌派軍隊以資地方治安

附屬書第四號

奉省附屬鐵路之鑛產無論已開未開均應妥訂公允詳細章程以便彼此遵守

附屬書第五號

清國全權提出追加條款第六ハ左ノ如ク修正スルコト

營口ニ駐在スヘキ清國地方官ハ日本軍隊同地撤退以前ト雖モ事情ノ許ス限り可成速
カニ同地ニ赴キ事務ヲ執ラシムルコト右ニ關シテハ追テ日清兩國政府間ニ協議スヘ
キコト

附屬書第六號

中國全權大臣所擬增入條款之第六款擬改如左

左營口向駐之中國地方官雖在日本軍隊由該處撤退以前如視該處情形但能通融牽就務
速飭令赴任視事至其所關一切事宜應由中兩國政府會商訂定

第五款 改入節錄
所有奉省之營口安東縣及他處商埠經日本國臣民佔取地段房產一俟撤兵後應將原物完全交還中國不得索價至該等處應如何設立租界之處當按照已定開埠條約辦理

附屬書第七號

二百八十一

B-0039

滿洲ニ關スル日清交渉談判筆記

第十一回本會議

明治三十八年十二月四日午後三時八分開會

列席者前回ノ通り慶親王ハ病氣ノ爲メ缺席

小村男 此レハ先日御話シタル日露講和條約第三條ノ末項即露國カ滿洲ニ於テハ鐵道

以外ニ特權ヲ有セスト宣言セルコトニ關スル講和會議錄抄譯文ナリ

(小村男該抄譯文附屬書第一號ヲ袁全權ニ手交ス)

袁全權 多謝ス

小村男 又此レハ日露講和條約訂結ノ際ニ於ケル兩軍ノ占領地區ノ地圖ナリ赤線以北

ハ露軍綠線以南ハ日軍ニシテ南ハ鴨綠江ヲ境トス此レハ條約訂結ノ際ニ於ケル占領

地域ヲ現ハシタルモノナリ

(此時小村男ハ該圖ヲ袁ニ交附ス(附屬書第二號)

袁全權 日軍ハ現在何レニ占據セルヤ

(小村男ハ此時圖ニ就キテ説明ヲ爲ス)

袁全權 鐵道線ニ沿ヒテモ兩軍ノ間隙ニ軍隊ヲキトコロアルヤ

小村男 ソレハアルナリ

袁全權 占領ノ一區域ト他區域トノ距離ハ如何

小村男 ソレハ塲所ニヨリテ異ルナリ
袁全權 例ヘハ遼陽ニ一團隊アルトセハ其居ル處周圍何里位ガ其管轄ニ歸スヘキヤ
小村男 ソレハ爰ニテハ分明ナラス此ノ圖ニハ兵ノ置キアル塲所ヲ皆擧ゲタルニアラ
ス此レハ單ニ占領地域ヲ示セルノミ然レトモ占領地内ニハ總テ兵アルナリ講和條約
訂結ノ際ハ此ノ様ナル有様ニシテ又此レハ前線ナリ講和條約ニヨリ兩軍共十八ヶ月
以内ニ撤兵スルモ其方法ハ兩軍司令官ニテ取極ムルコト、ナレリ依テ十月三十日滿
洲ニ於ケル兩國軍司令官ノ代表者四平街ニ會合シテ其方法ヲ取極メタリ即十二月三
十一日迄ニ日本軍ハ昌圖及其以南ニ引上ケ露軍ハ同時ニ此ノ線即テ蓋子溝及其以北
ニ引上ルナリ圖ヲ示ス此レハ第一期ナリ第二期ハ來年六月一日迄ニ日本軍ハ鐵嶺及
其以南ニ露軍ハ公主嶺及其以北ニ引上ケ第三期即テ來年八月一日迄ニ日本軍ハ奉天
新民屯撫順ノ線及其以南ニ又露軍ハ長春ノ線及其以北ニ引上クルナリ第四期即テ明
後年四月十五日迄ニ双方共皆殘部ヲ引上クルモノニテ通計十八ヶ月ナリ尙ホ詳細ノ
コトハ茲ニ在リ未ダ漢文ニ譯スルノ暇ナシ此カ本書此レハ附屬書ナリ
袁全權 翻譯ハ我方ニテナクシメシ
小村男ハ四平街ニ於テ締結シタル撤兵手續ニ關スル議定書及覺書ノ寫ヲ袁全權ニ
手交ス(附屬書第三號)
袁全權 御手數ヲ感謝ス
内田全權 扱本日ハ第七條ヲ議スヘシ

袁全權 承知セリ

内田全權 第七條ハ日本カ占領中ニ取立テタル税金ノ還附ヲ求メラレタル項ナリ此

ハ日本ニテ税金ノ必要ヲ感シテ取立タルモノニシテ皆地方ノ公共用ニ費消セリ故ニ

無論還附スヘキ性質ノモノニアラス因テ此項ハ削除アラントコトヲ要求ス

袁全權 此ノ内ニ區別アリ即チ營口ノ如キハ常關ト洋關トアリ常關ノ稅ハ露國ノトキ

モ地方公共ノ用ニ供セリ洋關ノ方ハ清國ノ爲メ保管セリ洋關ノ税金ハ義和團ノ際關

内外鐵道營口線及新民屯線ヲ破壞サレタルトキ其修繕費ニ用ヒ殘部ハ決算ノ上返ス

コト、セリ其他新民屯ニテハ車稅ヲ徵收セラレタリ此等ノ稅ヲ取立テラル、コトハ

軍事中ハ宜敷モ軍事終ラハ地方官ニ還附セラレソコトヲ求ム

内田全權 第七條ニ明瞭セサルコトアリソハ奉天ニ於テト云フコトハ奉天省ト云フコ

トカ又奉天府ト云フコトカ

袁全權 奉天省全體ナリ而シテ我方ニ知レ居ルモノモ知レ居ラサルモノモアリ

内田全權 只今ニツクノ區別ニ就キ御話アリタリ第一ノ營口洋關ノ收入ハ露國ノ時代ニ

ハ露清銀行ニテ之ヲ扱ヒ今日ハ正金銀行ニ預ケアリ此レハ無論貴國ニ返還スヘキモ

ナリ又常關ノ分ハ軍政署ニ於テ公共用ニ消費シテ此レニハ明細ノ帳簿アリ他日此

帳簿ヲ貴國ヘ引渡ストキハ明瞭スヘシ

袁全權 我方ニテハ常關ト洋關ノ區別分明セカリシテ以テ總テ含蓄セシメテ漠然ト書

セリ常關ノ方ハ地方公共用トシテ洋關ノ方ハ返還サル、ト云フコト只今分明トナレリ

小村男 洋關ニテ取立テタル税金ハ正金銀行ニ預ケテリ其關係ハ帳簿ニ明瞭ナリ撤兵

袁全權 此ノ事ハ滿洲ノ地方官ヨリ申越アリタルニ付一應御相談セシナリ

小村男 從來日本政府ヨリ此事ニ付意思ヲ明ニ爲シタルコトナキニ付貴方ニ於テ不

明ナリシハ御尤ノコトナリ元ヨリ洋關ノ方ハ貴方ニ返ヘスナリ只一時保管スルコト

袁全權 既ニ貴全權ノ御説明ニテ明瞭セルヲ以テ條項ニ入ル、ノ必要ナキニ付只御話

シタルコトヲ會議録中ニ記入シテハ如何

小村男 承知セリ

内田全權 只今新民屯ノ御話シテアリシモ此車税ノコトハ小キ事ニシテ又總テ公共ノ用

ニ供シ居レリ此レハ議題ニテハ考テ

袁全權 此事ハ今日迄ハ軍政官限リニテ取扱ヒ地方官ニハ關係ナカリキ一應地方官ニ

交渉セラレシナラハ可ナリシナラシ只今小村全權ノ御話ニヨリ營口洋關ノ税金ハ正

金ニテ保管シ撤兵ノ時返還スヘク又常關並ニ各地ノ税金ハ地方公共用ニ使用セルモ

ノニテ引渡ノ時ハ帳簿ト共ニ引渡スコト、會議録ニ記入セラレタシ

内田全權 營口丈ナラハ可ナルモ其他ノ地方ニ就テハ帳簿ト申シテハ語弊アルニ付收

支計算ヲ可成明細ニ認メテ出スト致シタシ

袁全權 收支計算表ニテ差支ナシ滿國ハ此ノ計算ノコトニ就テハ更ニ露國ニ交渉セカ

ルヘカラス

内田全權 營口洋關ノコトニ就テハ露國ゾトキ種々流弊アリシト聞キ居リシニ付我

府ニ於テハ可成收支ヲ明ニスル様充分注意スヘキ旨命令ヲ發シテアリ我方ニテハ之ヲ

明瞭ニスルコトヲ欲シタルナリ

袁全權 露國ノトキモ計算ノコトニ付我方ヨリ尋ヌレハ帳簿アルコトニ付帳簿カハ調

フレハ明瞭スト答ヘタリ是ハ充分調ラレ積ナリ日本カ既ニ斯ノ如ク明瞭ニセラル、

以上ハ此事ヲ露國ニ云ヒテ強ク交渉スベシ

(此時鄭書記官會議錄記入事項ヲ漢譯シテ小村男ヨリ袁全權ニ交附ス(附屬書第四號)

小村男 此レハ會議錄ニ記入スル文句ヲ定メントスルナリ

(又此時袁全權ヨリ清露間鐵路沿線ノ三十里内外ノ礦山ノ件ノ書類ヲ交附ス(附屬書

第五號)

袁全權 昨日御話シタル鐵道三十里以内ノコトニ關スル書類ナリ

内田全權 此レハ清國限リノコトニテ露國ト商議セシコトニハアラスト思フ

袁全權 然リ然シ此レハ清國自ラ露國ニ聲明セルトコロナリ

小村男 御手數ヲ謝ス

袁全權 御提出ノ會議錄ノ草案ハ一寸修正セリ即備案ノ二字ヲ追加セリ又若シ金額ニ

餘分アラハ如何ニスヘキヤ之レハ清國官更ニ渡サル、コト、ナシタシ

内田全權 無論ナリ餘リアラハ無論返スナリ

小村男 此レニテ貴全權ノ提議セラレタル七ヶ條ハ一通リ審議ヲ終リタリ併シ相方ノ意見繼ラヌ點モアルモ此レハ後廻シトナシ置キ次ニ我方提出ノ追加案ヲ討議スヘシ如何

袁全權 承諾セリ

小村男 我カ追加條款ハ先日日本文及漢譯文ヲ差出置ケリ御研究アリシヤ

袁全權 詳細閲覽セリ

小村男 此ニ對シ何等御修正案アリヤ若シアラハ先ツ一覽ノ上確然タル基礎ヲ以テ討議スヘシ

袁全權 有リ我方ニテ修正ヲ加ヘントスルモノハ今一度ニ全部御覽ニ入ルヘキヤ又ハ一條毎ニ差出スヘキヤ

小村男 一度ニ全部ヲ拜見スヘシ

袁全權 此ノ内ニハ我方ニ於テ異存ナク承諾セシモノモアリ

(此時袁全權ハ清國ノ修正案附屬書第六號ヲ小村男ニ交附セリ小村内田ノ兩全權ハ之ヲ熟讀ス)

袁全權 第三條ノ電線ニ就キテハ尙我方ニ事情アリ若シ必要アラハ一應説明シ置カン

ト欲ス

小村男 先ツ第一條ヨリ逐條討議スルコト、スヘシ第一條ハ御異議ナキ故確定ト認ム

袁全權 異議ナシ

B-0039

小村男 第二條ハ我提議ノ主旨ト全ク異リテ貴方ノ案ハ修正ニアラズ貴全權ノ新提議ナリ

袁全權 多少貴方ノ主旨ヲ容レ置キタリ

小村男 此レニテハ日本政府ノミ東縛セラレ貴國政府ハ何等ノ束縛ナク隨意ニ行フコトヲ得ルニアラスヤ

袁全權 清國ハ地主トシテ左様致スベキコトナリ

小村男 我案ノ精神ハ日本ハ既ニ南滿洲ニ於テ鐵道ノ經營ヲ許可セラレ之ヲ經營スル以上ハ相當ノ利益ヲ得サルヘカラス故ニ其利益ヲ害スルカ如キコトヲセラレハ鐵道經營成立セズ依テ此事ヲ協定シ置カント欲シタルナリ然ルニ貴案ノ如クソハ全然我主義ト相違スルニ付斷然承諾スルヲ得ス

袁全權 併シ東清鐵道ニハ我カ政府ノ利益モ多少加ハリ居リ又安東奉天間ノ鐵道モ將來買戻シテ清國ノ有ニ歸スヘキモノニ付我方ニ於テハ孰レモ益々盛ナルヘキヲ希望スルハ當然ナリ決シテ不利ヲ與ラルカ如キコトヲナサ、ルヘシ

小村男 其御主旨ハ能ク了解スルコトナリ御説ノ二鐵道カ收益ヲ生スルコト、ナレハ之ヲ貴國ヘ渡シタル後モ利益アルハ無論ノコトナリ果シテ然ラハ此利益ヲ完ラヌル様相當ノ手段ヲ執ラル、コト必要ナリ

袁全權 我方ニ於テハ清國ハ地主ナルヲ以テ其位置トシテ敷設スル權アリト認ム又第二ニハ地主ノ權利ヲ束縛セラル、カ如キコトアラハ内地ノ鐵道ニ關シテモ皆此ノ筆

B-0039

法ニヨリ扱ハシコト夫他外國ヨリ要求セラレヘキヲ恐ルハ、

小村男 固ヨリ貴國ニ地主ノ權アリハ、コソ東清鐵道及安東奉天間鐵道ノコトモ取極テ

爲シタルナリ此ノ取極ヲ爲シタル以上鐵道ノ利益ヲ害スルコト、ナリテハ清國カ地

主トシテ與ヘタル利益ハ空トナル此利益ヲ相當ニ保護スルノ責任ハ即チ此利益ヲ與

ヘタル地主ニ有ルニアラスヤ

袁全權 然レトモ明文トナガストモ清國ハ地主トシテ當然爲スヘキ責アリ只之ヲ明文

ニ載スルノ要ナキヲ覺ユ

内田全權 此レハ新シキ事柄ニアラス既ニ南滿洲ニ於ケル鐵道敷設ノコトニ付テハ清

露兩國互ニ協議スヘシトノコトヲ露國ニ許サレタルヲ以テ日本モ亦之ヲ移セルニ過

キス之ヲ承諾セラル、トモ重大ノ影響ハナカラソ

袁全權 此事ヲ定メタル滿洲還附條約ハ實行セザル條約ナリ

内田全權 實行セラレザル條約ナリト云ハルレトモ露國ハ必ス此ノ條項ヲ實行シ實

タリシナルヘク日本モ亦之ヲ實行セシトスルナリ

袁全權 此レハ非常ニ危険ナル紛擾ノ種子トナル條約ナリ

内田全權 本員カ昨今聞ク處ニ依レバ露國ハ長春ヨリ法庫門ヲ經テ新民屯ニ至テ龍

要求スト云ヘリ此レハ風説ナルヘキモ他日今此席ニ居ラル、曷袁兩全權カ其現職ヲ

去リ他人カ其位置ニ立テタルトキハ此ノ事ヲキテ保シ難シ左様ノコトアラハ我方ニ

非常ノ打撃ヲ受クルコト、ナル故今ヨリ此事ヲ定メ置カサルヘカラヌ兩全權ノ在リ

ル、以上ハ拒絶セラルルベキ也然ラズシテ萬一許可セラレコトアラシキヲ恐ルルハ故ナ

〔此間曠全權頻リニ否否ト叫フ〕

袁全權 萬許ガ、ルヘシ其故ハ義和團ノ事變以前既ニ關内外鐵道ノ新民屯ヨリ通江子

法庫門ニ達スル枝線ヲ敷設スル爲メ測量ヲナシ夫々準備セリ但シ事變ノ爲メ實行ヲ

中止セルノミナリ故ニ假令ヒ露國ヨリ要求スルトモ我方ニテ許可ヲ與ラルカ如キコ

トハ斷シテ無シ

曠全權 露國ヨリ會ラズル要求ヲ提出シタルコトナシ

袁全權 要スルニ清國ニテハ貴國ノ管理セラル、鐵道ニ對抗スルカ如キ鐵道ヲ造リ南

滿洲鐵道ノ利益ヲ害スルカ如キコトハ斷シテ爲サ、ルナリ又斯様ノコトアラハ貴國

ハ異議ヲ唱フルヲ得ヘシ此鐵道ノ利益ヲ保護スルコトハ當然ノコトナリ

小村男 其主意ハ了解セリ南滿洲鐵道ノ利益ヲ害スルカ又ハ此レト對抗スル鐵道ハ造

ラズト云フ御主旨ハ能ク明瞭セリ就テハ其御主意ヲ明ニナシ置キタシソレハ條約ニ

テラス共可ナリ會議録ニテモ存記シ之ヲ明ニ致シ置キタシ

〔此時袁全權ハ可ナリ既ニ起草セリト答ヘテ會議録掲載事項ノ草案ヲ出テ附屬書第

七號〕

袁全權 我提案ノ此ノ條項ヲ御承諾アラハ條款ヲ削除シテハ如何

小村男 此ノ草案ノ内鐵道ナル下ニ利益ノ二字ヲ入レタシ又幹路ト限定スルハ不可ナ

袁全權 幹路ハ敷設セサルモ枝線ハ敷設シテ差支ナキニアラヌヤ

小村男 兩方トモ含メサルヘカラス枝線ニテモ貴國ニテハ利益アリト認ブレラル、モ我

方ニテハ東清鐵道ノ利益ニ障害アリト認ムルコトゾルヤモ知ルヘカラヌ故ニ日本ノ

承諾ナク勝手ニ敷設セラル、コトハ我ニ大ナル關係アリ

(此時袁ハ草案ヲ更ニ改メ小村男ニ交附ス附屬書第八號)

小村男 此レニテ我主旨ト一致セリ

袁全權 然ラハ之レヲ會議ニ留ム

小村男 可ナラハ我提案第二條ハ撤回スヘシ之ヲ會議録ニ入ルテ双方ノ主意ヲ明

ニ爲シ置カシ

袁全權 承知セリ

小村男 次ニ第三條ナリ先刻何カ此事ニ付御話アリト申サレタル事情ノ説明ヲ承ラシ

袁全權 鐵道ノ話モ長カリシカ電線モ長キモ其ノ故話カ長ガルヘシ

電信ノ事ニ就テハ種々ノ問題アルモ原來烟台旅順間ノ海底電線ハ「グー」ゾル會社ガ芝

罌太沽間ノ線ヲ造ルコトゾルガリタルガ烟台ヨリ七哩外ニテ割ニ分岐シテ旅順ニ至ル

線ヲ造リ此ニ對シテモ清國ハ當時少シモ知ラサリシコトニテ後發見セルヲ以テ之

ニ關シテ露國ト交渉中端ナク戰爭トナリシナリ故ニ芝罌ヨリ七哩以外ノ線ハ清國ニ

於テ知ラヌ譯ナリ又此レハ現ニ破損シ居ルニ然ルニ貴全權ヨリ此電線ニ關シテ提議ヲ

果ニ就キ融通ノ方法ヲ彼我之ヲ連結スル方ニテ管理使用スルコト、シ但シ芝
罌ヲ七哩以内ハ清國ノモノ故芝罌ヨリ發スルモノハ清國ニ歸シテ管理シテ旅順ハ貴
國ニ歸シテ管理スルコト、其料金ノ收入ハ各總送局ニテ領收シテ彼我差引勘定ハ
ナカヌコト、致シタレバ此ノ方法ハ貴全權ノ御主旨ニ協ヘリトモ思考ス
又營口北京間ノ電線ハ元來聯合軍ガ山海關ヲ占領セル際各國ノ議定ニモ各國軍相
互ノ連絡ヲ謀ル爲メ山海關ヨリ北京ヘ一線ヲ聯合軍ノ爲メ架設セシメ然ルニ露國
ノ申條ハ其兵ヲ營口奉天ニ存スルニ付各國ノ例ヲ引キ北京ヨリ營口迄架設シタレト
云フニアリテ之ヲ許シタルナリ貴國モ今營口ニ兵ヲ有セラル、故此連絡ヲ欲セラレ
コトヲ然レトモ聯合軍撤兵セハ北京ノ線ハ取除ク譯ガリ故ニ日本ハ今ニ於テ
營口北京間ニ架設スルノ要ヲカレタリ又牛家屯ヨリ營口ニ至ル間ノ線ハ既ニ鐵道ニ
沿テ架設セル電線ナルニ就キ殊更ニ記載ノ要ナカレヘシ右三事情ハ即チ本員ノ
云フコトニテ事情ナリ
小村男 今ノ御話ニヨレバ旅順芝罌間ノ海底線ハ芝罌ヨリ七哩ノ沖ヨリ分岐セシメテ
貴國ノ知ラサル間ニ旅順ニ繋キタリトコトナルモ今日迄ノ事實ニヨレバ露國ハ烟
台ニ於テ其末端ヲ露國領事館ニ引キ入レ居レリ此レハ別ニ一線無クシテハ行ハレカ
ルコトナリシレバ如何ニナリ居ルヤ
袁全權 夫レハ無線電線シヨテニテ實ナキガ
小村男 然ラヌ露國ノ海底電線ナリ其端ヲ烟台ヨリ引上ケテ露國領事館ニ移シタルナ

B-0039

袁全權 此ノ事ニ就テハ唐會辦カ詳細之ヲ知ルニ付一應説明セシムヘシ
唐會辦 最初義和團ノ事變ヨリ直隸ノ電線破壊セラレ南北不通トカリタルモ急速ニ修
繕出來リルヲ以テ大北電信會社ニ交渉ノ上南清ト山東間ニハ電信ノ交通完全ナルニ

付芝罘大沽間ニ海底線ヲ造ラシムルコトヲナリタリ然ルニ電信局員ノ丁抹人某ト露

國トノ間ニ密約シテ清國ニ斷リモナク芝罘港外七哩ノ所ヨリ莒ニ旅順ニ通スル線

ヲ造リタリ此事ハ二ヶ年ノ後始メテ發見セシナリ其故ハ電信局ニ丁抹人アリテ以テ

開戦後局外中立ノ關係上清國ハ彼レヲ解雇シテ新聞紙上ニテ解雇ノ旨公告シタルニ

十數日ノ後芝罘ノ水野領事ヨリ丁抹人ニシテ旅順ニ通スル電線ヲ修繕スルモアリ

テ現ニ支那ノシヤンクヲ備ヘ著手シツ、アリトノ事ヲ報セラレ其時初メテ此海底線

ヲルユト知リタルナリ又今大使ノ御話ニヨレバ芝罘ノ露國領事館ニ海底線ヲ接續

シテアリト建シトナルモ夫レハ察スルニ多分電線ノ末端ヲ引入レタルモハニテハナク

大北電信會社ト莒ニ電信ノ交換方ヲ取極メタルコトナラソ元來芝罘大沽間ノ海底線

ヲ設クコトハ事變後聯合軍ニ於テ大北會社ニ經營ヲ爲サシムタルコト尤モ大北會社

ハ清國ノ代辦ノ名義ニテ行ヒタレトモ故ニ今回旅順線ノ事發覺セルトキ如何ナル方

法ニテ行ヒタルモナルカ取調ヘタルニ大北會社ハ海底線布設ニ關シ全權ヲ有セシ

ヲ以テ擅ニ七哩以外ヨリ旅順ニ連設セルモノナルコト明瞭セル故露國領事館ト連絡

ノコトモ同會社ニ於テ擅ニ代辦セシコトヲ思惟セラレ

内田全權 芝罘ノ普通海底電信ハ清國電信局ニテ取扱フニヤ

唐會辦 今日迄ハ大北會社ニテ取扱ヒ居レリ最初聯合軍カ清國電信局ニ信用ヲ置カス

昔情ヲ唱ヘテ大北會社ニ取扱ハシメタリ然レトモ無論清國カ資金ヲ出シタルコトニ

及且名義ハ清國ノ代辦ナレバ聯合軍カ撤退セハ清國ニ取戻スル契約アリテ目下會社

カ無斷ニテ勝手ナルコトヲ爲シタルコトニツキ交渉中ナリ

小村男 今日迄ノ旅順芝罘間海底電信ノ歴史ハソレニテ分明セリ日本ハ貴國ノ知ラズコ

トヲ疾クニ知リ居リタルナリ

唐會辦 然リ芝罘日本領事ノ爲メ分明トナルナリ

内田全權 然シ此モ戰爭ノ御蔭ナリ

小村男 海底線ノコトハ能ク分明トナルモ營口北京間ノ電信線ハ日本ニ於テ特設ス

ルノ主旨ニアラスシテ貴國ノ電柱ニ一線ヲ添架シタキ希望ナリ御承知ノ通り現ニ山

海關北京間ニハ既ニ一線添架セルニ付山海關營口間ニモ同様一線ヲ加ヘンコトヲ欲

スルナリ其主旨ハ電信營業ノ利ヲ貪ラントスルニアラヌ此レハ政事上ノ必要アルカ

爲メナリ蓋シ北清ノ各國守備隊カ永ク駐屯スルナラハ此ノ必要ナキモ直隸省ノ列國

守備隊ハ公使館護衛ヲ除ク外不遠撤退セシムルノ時機來ズベク然ルトキハ公使館護

衛兵ノ殘ルヲ以テ北京營口間ニ直接通信ヲ爲スノ必要アリ營口迄行クハ同地ヨリ

ハ旅大租借地迄接續シ居ルヲ以テ北京營口間ニ一線ヲ架設スルコトヲ承諾セラレ

ハ直隸ノ撤兵行ハレ易シ此ノ主旨故此レハ撤兵問題ニモ關係アルコトナレバ日本政府

ノ希望ヲ容レラレ當分ノ内即公使館護衛兵ノ殘ル間一線添架ノコトヲ承諾アラシメ
トヲ希望ス

袁全權 元來清國ニ於ケル電信ノ權利ハ尤モ嚴重ニ保護セリ他ノコトヨリモ一層嚴ク
セリ故ニ外國ヘモ未ダ曾テ讓ラス聯合軍ノ爲メ山海關北京間ノ電柱ニ電線ノ架設ヲ
許セルハ此軍ハ當時地方ノ擾亂ヲ治ムルカ爲メノ軍ナリシカ故特ニ許可セルナリ又
營口山海關間ニ於テ露國ニ許セルコトモ當時露兵モ亂ヲ治ムルノ目的ナリシ故已ム
ヲ得ス許セルナリ然ルニ今日日本軍カ營口ニ在ル理由ハ日露間ノ戰爭ノ爲メニシテ
清國ノ治亂ニ直接ノ關係ナシ故ニ此電線ヲ若シ貴國ニ許サハ各國ヨリ又續テ要求ス
リ結局我カ電線布設ノ主權ヲ侵害セラル、次第ニ付今ノ御話ハ了解スレトモ之レハ
遺憾ナカラ御同意ニ困難ヲ感スルナリ

小村男 貴方ノ案中閩匪以前ノ電線ヲ返ヘセヨト云フコトアリ御承知ノ通り滿洲ニ於
テ閩匪ノ亂ニ際シ匪徒貴國ノ電線ヲ破壞シ後露國ニ於テ之ヲ新設シタルカ今回ノ口
露戰爭トナリ主タル電信線ノ在ル處ハ鐵道沿線ナルガ戰鬪中露國ノ布設セル電線ハ
多ク破壞セル結果今日用ユルモノハ總テ日本軍カ新タニ布設セルモノナリ故ニ閩匪
以前ヨリ存在スル貴國ノ電線ハ遼河以東ニハ今ハ全ク存セサルモノニシテ無キモノ
ヲ選附スルコトハ出來サルナリ

袁全權 ソレハ調査ヲ爲セハ直ニ明瞭セカルヤ當時架設ニ從事セシ委員等モアラコト
ニ付取調ソレハ明瞭ナリト思考ス

小村男 貴國電線ハ只今申ス通り悉ク團匪及戰爭ノ爲メ破壊セラレ遼河以東ニ今使用
シ居ルハ總ラ日本軍ニ於テ新ニ架設セルモノニ付今殘レルモノトテハ全ク無シ
袁全權 併シ電線ハナカルヘキモ附屬ノ局舎等ハ尙ホ現存スヘキニ付調査スレバ明瞭
ナラスヤ

小村男 局舎モ破壊セラレタルモノモアリ又多少現存スルモノモアラソ但シ鐵道ニ沿
フトコロノ電線ハ從來ノ局舎ヲ用ヒス皆停車場ニテ扱ヒ居レリ別ニ局舎ナシ又貴國
ノ局舎ヲ用ユルノ必要ナキ故若シアラハ之ハ還スヘシ

袁全權 鐵道刑屬ノ電線ハ清國ハ之ニ關與セズ然シ軍隊ノ布設セル内地ノ軍用電線ハ
貴軍撤退ノ後ハ營業ノ利害ニ關スルモノニ付當然還附セラレタシ我目的ハ營業上ニ
關スルモノナリ

小村男 軍用線ト雖モ鐵道ニ沿テ必要ノモノハ尙ホ存シ置キ鐵道以外ノモノハ還附
スヘシ
袁全權 我ガ主意ハ鐵道ノコトニハ關係ナク行政上營業上ニ必要ノ關係ヲ有スルモノ
ノミニ付還附ヲ乞フ所以ナリ

小村男 第三條ニ關シテハ旅順芝罘間ノ海底線ハ一時日清ノ合同トスルコトハ大體ノ
主旨ニ於テ異論ナシ然シ電信ノコト故其料金ノコト等ハ如何ニスヘキヤハ今次スル
コト能ハス日本ニテ調査セシムヘシ其報告ヲ俟テ更ニ協議スルコトニスヘシ
唐會辦 此シ電報料金ノ精算ヲ要セサシコトハ單ニ旅順芝罘間ニ限ラレタルモノニシ

ヲ他地方ニ對スルモ別ニ計算ヲ要スルナリ

袁全權 之レハ議論ヲ止メテ電信料金等ヲコトハ追テ詳細ノ規程ヲ商議スヘシト致シ

テハ如何

(此時袁全權ハ唐會辦ニ命シテ條文ヲ改正セシメ居タリ)

内田全權 山海關營口間之電線ハ今日ニ於テハ既ニ露國カ之ヲ有スル理由ハ消滅セル

ナリ尙ホ彼ノ線ハ現存シ居ルルヤ否ヤ又如何ニ處分セラル、御考ニヤ

袁全權 山海關迄ハ各國共通ナリ營口迄ノ線ハ清國地方官カ營口ニ駐在スルニ至ラハ

直ニ除去スル積リナリ故ニ同地方ニ選附セラレハ直ニ除去シ

内田全權 其レハ日本ヨリ營口ノ選附ヲ受ケナハ露國ノ線モ直ニ除去ク御考ニヤ營口

ハ露國ヨリ選附ヲ受ケルニアラス夫レニテ電直ニ除去ク御考ニヤ

袁全權 該電線ハ鐵道線路ニ添ヘルモノナリ然ルニ谷中鐵道沿道ニ露兵ナキヲ以テ露

國ニ關係アリ

内田全權 山海關營口間鐵道ニ沿テ貴國ノ電柱ニ添架セル線ハ矢張露國ニ所有權アリ

袁全權 夫レハ未ダ取除カサルモ現ニ何人モ保管シ居ラサルヲ以テ其儘ニナリ居レリ

内田全權 然シ實際ハ兎ニ角矢張露國ニ於テ權利ヲ有スルナリ

袁全權 兎ニ角之ヲ再ビ川ユルコトハ承諾出來ス

内田全權 然シ元條約ニテ許サレザルトキハ山海關北京間ニ各國カ電線ヲ有スルヲ得

ル期間内ハ總テ之ヲ許スコト、ナレバ故此權利ヲ拒マサルコトハ能ハサルナラシ

袁全權 然シ最早營口ニハ露兵ナキナ以テ此電線ヲ要セサルナリ

内田全權 此電線ノ通スル所ハ營口ニアラヌ記憶ニヨレバ田庄臺又ハ牛家屯ナリ之レ

ハ寧ロ東清鐵道ト連絡スル線故營口ト關係ナシ故ニ山海關迄ノ線ヲ聯合軍ニテ有ス

ル以上ハ尙ホ露國ニ於テ權利ヲ持續スヘキモノニシテ撤兵トハ關係セズ

袁全權 現ニ營口ニ露兵ナキ以上ハ其權利ナキモノナリ

内田全權 然シ此レハ關外鐵道還附條約ニ附帶セル取極メナリ

袁全權 夫レハ關内線ノ例ヲ引キテ云フ取極ニ外ナラス

内田全權 此レハ只參考ノ爲メ御尋致シタルニ過キヌ畢竟露國ニハ必要止ミ日本ハ露

國ニ代ハルカ如キモノナレバ露國同様ニ許サル、コトニ別ニ差支ナキニアラヌヤ

北京ニ兵アル以上ハ此ノ例ヲ取ルノ必要ヲ感スルコト故日本之ヲ許サレテ差支ナシ

ト思考ス是非日本ニ許サル、様御再考アラントナシ希望ス

袁全權 他國ノ例ヲ引クノ懸念アリト云フコトハ現ニ獨逸ヨリ申込ミアリタリ元來露

國ニ許シタルハ滿洲ニテ露國カ義和團ヲ討伐シタルコトニ聯合軍ガ北清ニ於テ義和

團ヲ討伐セルト同様ナリトノ理由ニヨル今日ノ日本軍ハ露國ニ對スルモノニテ我國

ト關係ナシ且獨逸カ管ヲ青島ヨリ濟南ヲ經テ北京ニ架設スル要求アリシモ堅ク之ヲ

拒ミタルナリ又青島ヨリ天津迄ノ海底線ノコトモアリ之モ亦同様ナリ

内田全權 然シ其場合ハ日本ノ場合トハ關係異ニシテ先方ニハ理由ナク我方ハ守備隊

トノ關係上請求スルノ理由アルナリ

袁全權 獨逸ヨリ言ハスレバ矢張日本ト同様公使館護衛兵ノ爲メナリト云ハシ

内田全權 夫レハ濟南青島間ノミガリヤ

袁全權 青島ヨリ濟南ヲ經テ北京迄ナリ

内田全權 其レハ請求シ居レルヤ

袁全權 其レハ云ヒ出シタルコトアレトモ斷然拒絶セリ

唐會辦 鐵道ニ沿ヒタル電線ハ濟南迄通シ今度ハ之レト連絡セツトスルナリ

小村男 兎ニ角第三條ニ就キ尙十分研究調査ヲ要スルコトアル故他日ノコト、スヘシ

袁全權 今日此條ヲ議スルコトハ止メテ此儘トスヘシ

袁全權 少しク修正セシムト欲ス

小村男 本作ルミナラス滿洲ニ於ケル軍用電線ハ果シテ如何ナル現狀ナルカハ只今申

シタル通りナルモ此レハ只本員ノ知ル範圍ノミナレバ其實際如何ハ更ニ充分調査ノ

上全體ノコトヲ協議セシム

袁全權 可ナリ

小村男 次ハ第四條ナリ此レハ御承知ノ通り鐵道用材及守備兵ノ需要品ハ無税ト云テ

コトナリ貴案ニハ守備兵需要品ノコトヲ除クトアリ然レモ原來守備兵ノコトハ未

タ決定セザル問題ナルニ付此レハ此儘御承諾アリテ守備兵需用品ノコトハ守備兵ノ

コトガ決定ノ後如何様ニナスガテ改メテ議スコト、スヘシ

袁全權 可ナリ

B-0039

小村男 次ニ第五條ナリ此案ヲ出シタルハ實ハ貴國ノ利益ヲ思ヒ提案セルナリ然ルニ
御修正ニヨレバ我主意トハ全ク異ナリ居レリ滿洲ヨリ雜穀ヲ輸出スルヲ許サレボレ
ハ滿洲ニ産業ノ發達出來ズコト、ナルナリ元來滿洲ハ農業地ナルニ現ニ許サレタル
豆粕ノ外農産物ノ輸出ヲ許サストスラハ滿洲ハ發達セス之レハ貴國ノ不利益ナリ今
ハ滿洲發達ノ爲輸出ヲ解禁スルノ好時機ナリ故ニ斷行セラレ、ノ得策ナルヲ覺ユ然
ルニ御修正案ハ全然我カ主旨ト異リ居ルニ付此レナラハ御相談ノ要ナキナリ
又此事ハ固ヨリ必スシモ條約ニ定メストモ宜シ將來滿洲地方ノ發達ヲ計ルカメ貴國
政府自ラ進テ之ヲ行フトノ主旨カ明ニナレハ夫レニテモ日本政府ハ満足スヘシ此主
意ニヨリ今一應御考アリタシ
袁全權 我方ノ事情ヲ云ヘハ原來我滿洲ノ農民ハ甚ダ愚ナルモノナリ全ク天候ニヨリ
收穫シ旱魃ノ防キ方モ知ラス又雨水ヲ防ク途モ知ラス故ニ收穫多クハ残り少クレ
ハ不足スルガリ又農學モ知ラス他地方ニテ滿洲ノ雜穀ヲ仰クハ山東ノ東萊府及北京
方面ノ永平府等ナルモ日露開戦以來滿洲ニテハ牛馬不足シ又穀物欠乏セルヲ以テ反
對ニ直隸ヨリ滿洲ヘ輸入スルナリ故ニ今輸出スルコト、スルハ地方ノ民非常ノ困難
ヲ感スルナリ又一方ニハ各國ハ從來自米ノ輸出ヲ希望セルモ此レハ各地方官始メ人
民等モ皆自米價ノ騰ルヲ好マカルヲ以テ反對セリ若シ滿洲ニテ雜穀ノ輸出ヲ許サハ
南方ニ於ケル米輸出ノ問題迄影響スルヲ以テ困難ナリ故ニ租借地内ニ輸出スルコト
丈承諾セリ此レハ香港澳門等ノ例ニヨルナリ此兩地ハ一年ニ何程トノ定量アルモ今
三章九十九

B-0039

回ハ定額ヲ定メス承諾セシトスルナリ

小村男 我案ハ左様ノ主旨ニアラス我方ノ主旨ハ雜穀ノ輸出ヲ許スコトハ孰レノ時ニ

カ御英斷アルヲ要ス今カ其時機ナリトスルニアリ此事タルヤ租借地内ノミナラス滿

洲全體ノ盛衰ニ關スルモノニテ一遼東半島租借地ノミナコトナラハ御話スルニ及バ

ヌコトナリ

袁全權 目下英獨ヨリ長江筋ノ米ノ輸出ヲ許サシコトヲ迫リ居リ又滿洲ノ事情ハ今說

明セル如クナルヲ以テ故ニ之ヲ滿洲ニテ許スコトハ一層困難ナリ

小村男 雜穀ト特ニ認メタルハ米ヲ除クト云フコトナリ御話ノ如クナラハ明ニ米ヲ除

クト認メナハ如何

袁全權 北方ニテハ雜穀ヲ食シ南方ニテハ米ヲ食スルニ付故ニ北方ニテ雜穀ニ重キヲ

置クコトハ南方ノ米ト同様ナリ今日ニ於ケル困難ハ前述ノ如シ故ニ漸々整頓シ滿洲

ノ農業發達セハ勢ヒ我ヨリ進ンテ禁ヲ解クノ時期來ルヘシ其時ニハ自ラ解禁セシ現

在ニテハ頗ル困難ナリ

小村男 元來貴國ハ貴國ノ利益トナルコトモ自ラ進ラ斷行セラル、コトナキ故願クハ

此事丈ケハ此際條約ヲ以テ決定セント思ヒタルナリ

袁全權 御好意ハ深ク謝ス只今日ハ甚々困難ヲ感スルニ付キ將來滿洲ノ農業發達ノ時

機至ラハ當然自ラ解禁スヘシ

内田全權 癸ニ日清追加條約談判ノトキ米ノ輸出解禁ノコトニ就キテ張總督ト御話セ

三張總督米穀輸出解禁を贊成せりし事内國の事情は之を許さず故其高き限を許
す可なりとて人事を以て今回之談判に於て日本ノ國論は只單ニ滿洲ノ雜穀解
禁ヲミニテハ満足せざる全國ヨリ米穀輸出ノ致シタラシト云フニテ然ルトモ各國
モ利益ヲ受クベシ然レトモ只單ニ滿洲ノ雜穀ノミトセシハ貴國ノ困難ヲ察セシカ故
ナリ若シ此機ヲ逸セハ他日百年ヲ過クルモ到底行ハレハルコトナリ滿洲ニテハ露國
ノトキ輸出ヲ許サレタル例アリ旁々以テ此際少クトモ滿洲ノミ解禁ヲ斷行サル、コ
ト必要ナラシ

衰全權 此ノ消息ハ本員ニ於テ明白ニ承知シ居ルナリ今ノ御話ノ主旨ハ農業ノ發達ヲ
期スヘキニテアルコトハ能ク其理ヲ知ル之ヲ知リツゞ實行スルコト能ハサルハ一般ノ
人民カ米穀物ヲ輸出セハ餓死ストノ考ナ有スル故ナリ清國ニハ奇妙ナル事情アリ
例チ云ヘハ先年本員カ直隸ニ來リシトキ天津ノ米價高カリシヲ以テ北京天津ニ毎年
十萬石ツゞ輸入スルコトヲ上奏ノ上允許セラレタルモ之ヲ實行スルトキ兩廣總督之
ヲ拒ミタリ故ニ種々盡力シタレトモ行ハレズ約束セル商人等ヨリハ損害ヲ受ケタリ
トテ苦情ヲ申込マレ二年モ經テ未ダ解決セサル次第ナリ又今回ノ戰爭トナリテ後奉
天ハ米不足トナリ直隸山東ノ兩省各地方ヨリ同地ヘ米ヲ輸送スルヲ誘導シタルニ熱
河都統ハ大ニ反對シテ之ヲ拒ミ本員ハ滿洲ハ皇祖ノ發祥地ナルヲ以テ此事ニ反對ス
ルノ理由ナシト等ヒタル結果漸ク僮ニ同意ヲ得タル様ノ次第ナリ

小村男 本員ノ主旨ハ既ニ御了解ノコトナラシ又輸出ニ關スル貴方ノ御事情ハ能ク研

究シテ委細承知ノ上ニ此案ヲ出セルナリ之レハ或ル時機ニ於テ英斷ヲ要スルコトニシテ今回ハ其時機ナリト推シタルニヨルナリ其故ハ若シ滿洲カ露國ノ有ニ歸シタルモノトセハ露國ハ必ス雜穀ノ輸出ヲ許シタルナルヘシ故ニ露國ノ有ニ歸シタルヲシニハトノコトヲ考ヘテ諦メテ付ケナハ之ヲ行フ如キコトハ易々タラズ此觀念カ出來ヌトノコトナレハ本案ハ撤回スヘシ

袁全權 本員等兩人ハ能ク貴全權ノ御主旨ヲ了解セリ只周圍ノ關係及清國全體ノ大局ヨリシテ承諾致シ兼ヌルハ已ムヲ得サル次第ナリ

小村男 是ハ撤回セシ

袁全權 何卒左様ニ願フ

小村男 次ハ第六條ナリ此ノ御修正ノ主旨ハ了解ニ苦ム我方ノ主旨ハ斯クノ如キモノニアラス此次ノコトナレハ當然ノコトニシテ特ニ一ヶ條ヲ設ケテ之ヲ定ムルノ必要ナキナリ提案ノ主旨ハ決シテ然ラス

袁全權 貴方ノ主意カ明瞭ナラザリキ御説明ヲ乞フ

小村男 我原案ノ主旨ハ書キ方カ少シク不明瞭ナリシナラソ故ニ改メテ認ムヘシ

唐會辦(小村男ニ向ヒ) What is the meaning of your proposal?

小村男 The Governments of Japan and China shall mutually extend the most favoured nation treatments in all matters stipulated in the Treaty and Additional Agreement.

(唐會辦此意味ヲ漢文ニ認ムテ袁全權ニ示ス袁全權閱覽ノ後之ヲ小村男ニ手交ス)

B-0039

B-0039

小村男 我方ノ主旨ハ其意義ナリ
(袁全權再ヒ案ヲ取リテ又修正ヲ加ヘテ提出シ文句ノ評議アリ)
袁全權 最優ノ例ナル語難字句ニシテ了解シ難シ
(袁全權復々案ニ修正ヲ加フ附屬書第九號)
小村男 事ニ遇ラテトハ如何
唐會辦 曰ニ 臣等ハ云フコトナリ
内田全權 各款カヨシニ 臣等ニハアラサルカ
唐會辦 ソレハヨシニ 臣等ナリ
袁全權 我方ニテハ見解ノ相違アリキ
小村男 然リ
(爰ニ於テ文案決定ス)
小村男 此レニテ當方ヨリ提出セル本案及貴全權提出ノ追加案並ニ當方ノ追加案等一
通り議了セリ本日ハ此レニテ止メテ次ノ會議ニテ今迄一致セサル個條ヲ討議スルコト
ニテスベシ
袁全權 承知セリ
小村男 御承知ノ通り數日間討議ヲ重キテ求テ兩國一致セサル個條ハ我提案ノ第一條
第二條此レハ大體ニ同意ヲ得タルモ文案ニ就テ纏マラス又我提案ノ第七條中奉天新
民屯間及吉林長春間鐵道ノ件又第十條漁業權ノ問題次ニ貴全權提案ノ七條ノ内第一

條鐵道守備隊ノ件第三條第五條ニ關シテハ我ヨリ修正案ヲ提議セリ御熟考ノ上回答ヲ求ムルコト、ナリ居レリ又貴全權提出ノ第六條ハ未定ナリ又今日議シタル我増加ノ條ノ内第三條等列レハ大部アルニ付此等ニ對シ御同様ニ研究シテ何トカ纏ハル様協議モソト欲ス

袁全權 昨日我方ヨリ追加セル一條モ亦未決ナリ

小村男 然リ

袁全權 貴全權モ是非纏メラル、御希望ナラソ我ニ於テモ出來得ル限り纏メラルニ務ムヘシ尙我方ノ爲メニモ纏メラル様御勘考ヲ乞フ

小村男 御互ニ其精神ニテ安協ヲ考フルノ外途ナカラソ

袁全權 本員モ其事ハ頗ル希望スルナリ

小村男 次ノ會合ハ何時トスヘキヤ御都合如何

袁全權 明日ハ一日休ミ明後日ト致シテ如何

小村男 可ナリ明後日午後三時トスヘシ

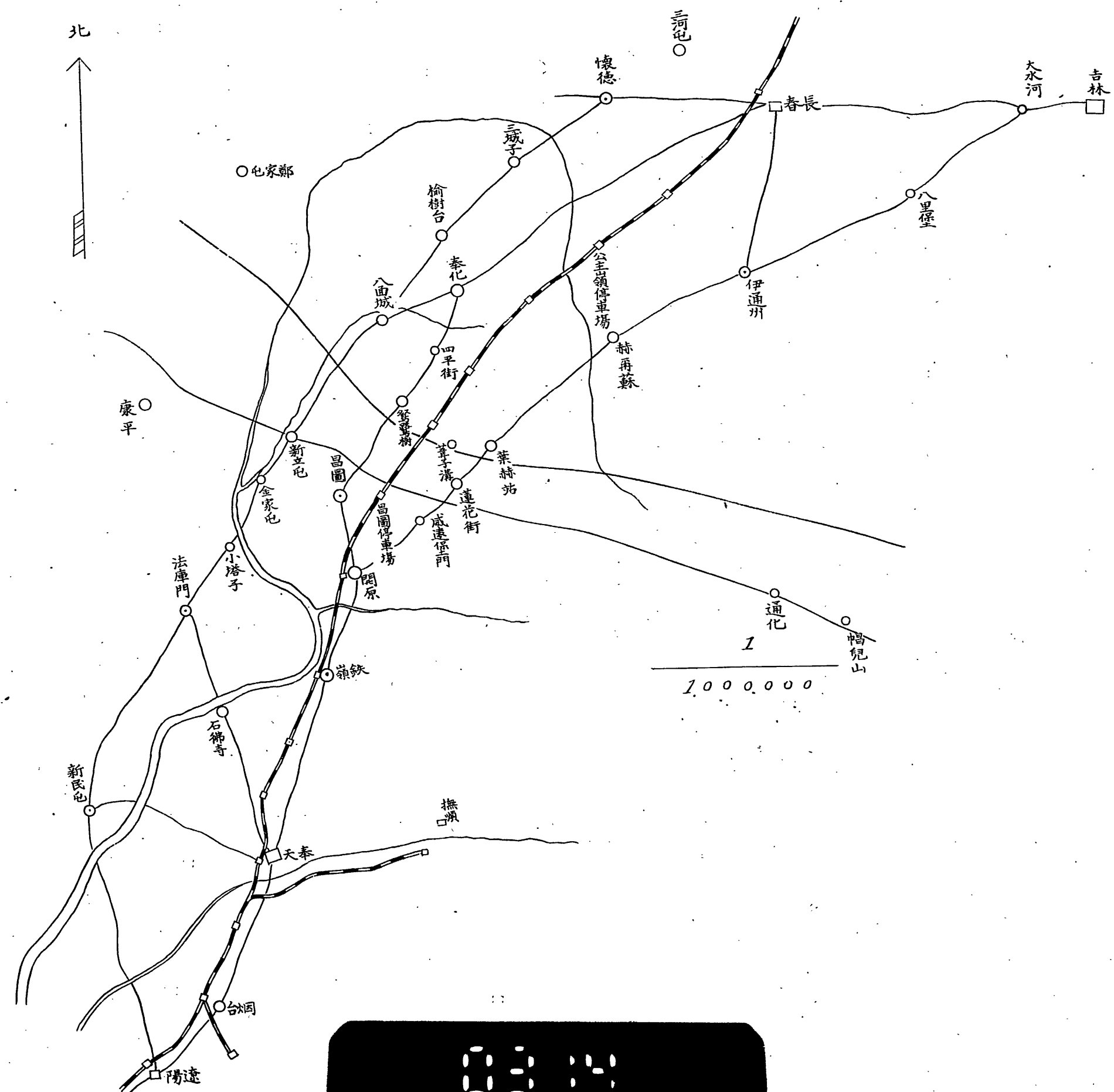
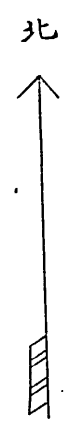
袁全權 保護兵ノコトハ是非御考量アリタシ

小村男 是レハ如何ニ考ヘテモ好キ智惠ヲ出カレソコトヲ乞フ

午後七時五分散會

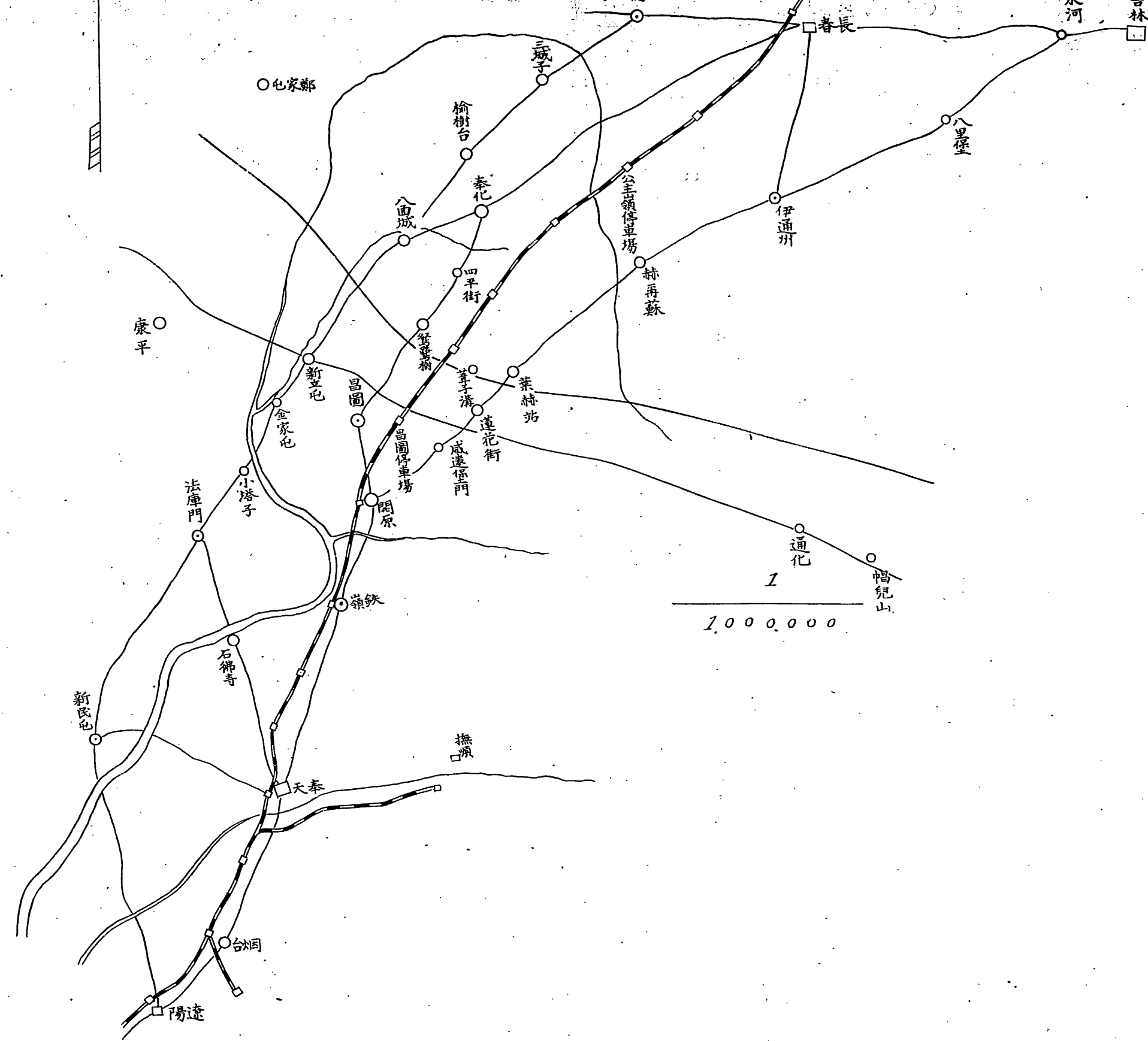
附屬書第一號

節譯關於滿洲地方之機會均等宗旨俄日兩國議和會議記錄
小村男爵聲言滿洲將軍與俄官所訂之某約即如承辦吉林省內礦產是屬違背機會均等宗旨
之獨佔權或專屬某事之優權之類緣由並指摘俄國政府在某地即如哈爾濱爲經理鐵路所必
需之地面以外加割龐大寬濶界址施其治理之權待寓居該處之日本國臣民一如俄國政府所
欲爲以致日本國臣民因日中兩國條約所獲利權不能享受之實在情形
維迭大臣答云中國允俄國以類同獨佔權或專屬某事之優權或特准承辦鑛產之事是所未知
設爲果有此項約定或特准是屬俄官未奉皇帝命允擅自訂辦之事原可即行作廢亦可允必行
廢棄至於哈爾濱事宜俄國在該處所施權力不過合理獲得產業之物主應施之權力暨警察權
耳而實於特准約內所訂定者也並稱至於公權即如待外國人之司法權未曾因此稍有侵礙至
於東三省鐵路特准之約按照條約所訂係由中國自行准予核諸該約各款並非侵礙他國個人
或公司在東三省應獲同此利益之權
彼此申明意見所在之後兩國全權大臣按照小村男爵所擬將下開聲明之語商結第二條作定
俄國政府聲明俄國在東三省地方並不享有侵礙中國主權或違背機會均等宗旨之關乎地
土之一切利益或佔先或專屬某事之便益



附屬書第二號

B-0039



B-0039



附屬書第三號

日露兩軍滿洲撤兵手續及鐵道線引渡順序議定書

第一條 本年九月五日八月二十三日^{ハルビン}ニ於テ日露兩國ノ間ニ調印シタル講和條約第三條ニ關スル追加約款ニ基キ左ノ通り協定ス

一、滿洲ニ於テ前面陣地ヲ占領スル日本軍隊ハ千九百五年十二月三十一日(十八日迄)ニ法庫門、金家屯、昌圖、威遠堡、門撫順ノ地帯内ニ引揚クヘシ

滿洲ニ於テ前面陣地ヲ占領スル露國軍隊ハ千九百五年十二月三十一日(十八日迄)ニ伊通州、葉赫站、葦子溝、八面城、三城子ノ地帯内ニ引揚クヘシ

二、千九百六年六月一日(五月十九日迄)ニ日本軍隊ハ法庫門、鐵嶺、撫順ノ線及其南方ニ引揚クヘシ、露國軍隊ハ三城子、公主嶺、停車場、伊通州ノ線及其北方ニ引揚クヘシ

三、千九百六年八月一日(七月十九日迄)ニ日本軍隊ハ新民屯、奉天、撫順ノ線及其南方ニ引揚クヘシ、露國軍隊ハ三河屯^(註三河屯、鐵嶺ノ西北約十里)、寬城子、八里堡ノ線及其北方ニ引揚クヘシ

四、兩締約國ノ各一方ハ千九百六年四月十五日(四月二日以後滿洲ニ於テ戰團員二十五萬人以上ヲ有スルコトナク)又千九百六年十月十五日(十月二日以後ハ戰團員七萬五千以上ヲ有スルコトナカルヘキモノトス)而シテ双方ノ撤兵ハ千九百七年四月十五日(四月二日)以前ニ於テ全部終了スルヲ要ス

五、講和條約追加約款第一ニヨリ兩締約國ハ滿洲ニ於テ各自ノ有スル鐵道ヲ保護ス

B-0039

B-0039

三頁入

ル爲メ置クコトヲ得ル兵員ハ一吉米ニ付平均十五名トス

第二條

一、鐵道線路引渡ノ爲メニ兩締約國ノ各一方ハ軍事交通部將校及技師ヨリ成ル三名ノ委員ヲ任命ス右委員ハ西曆千九百六年四月中旬ニ其業務ヲ開始スヘク其會合ノ場處及時日ハ別ニ協定スヘシ

二、公主嶺停車場ノ南方ニ於ケル鐵道線路ノ引渡及受領ハ千九百六年六月一日(五月

十九日以前)ニ於テ又公主嶺停車場及其北方ニ於ケル線路ノ引渡及受領ハ千九百

六年八月一日(七月十九日)以前ニ於テ終了スヘキモノトス

日本ニ引渡スヘキ鐵道ノ最北點ヲ精確ニ定ムルコトハ外交上ノ交渉ニ關ル

記名者ハ滿洲ニ於ケル日露兩軍總司令官ノ適當ナル委任ヲ受ケ日本語及露西亞語ヲ以

テ各二通ノ本文ヲ作り双方ニ於テ日露語本文各一通ヲ有スルコトヲ玆ニ證明ス

千九百五年十月三十日(十七日)於四平街停車場之ヲ作ル

日本滿洲軍參謀陸軍少將 福 島 安 正

記名調印

露國滿洲軍參謀次長 オラノフスキ

覺書

滿洲ニ於ケル日露兩軍總司令官ノ代表者ハ本日(日露兩軍滿洲撤兵ノ順序ニ關スル議

一六

〇

〇

一六

定書ニ記名スルニ方ヲ左ノ如ク協定セリ

兩軍ノ配置區域内ニ無關係者ノ入來ルコトハ不便トスルヲ以テ地方ノ住民ヲ除ク

外一方軍隊ノ區域ヨリ他方軍隊ノ區域ニ赴クコトハ兩軍官憲相互ノ同意ヲ以テスル

ニ非レバ之ヲ許サズ該許可ニ關シ相互間ニ連絡ヲ取ル爲メ一方ノ軍隊ハ他方ノ軍隊

區域内ニ旅行スルコトニ關スル證明書ヲ交付スヘキ特別ノ司令部ヲ指定ス該許可ヲ

交付スル爲メニハ各一個ノ場合ニ付キ當該旅行者ノ赴ク一方ノ軍隊司令部ノ同意ヲ

得サルヘカラス現在ニ於テハ此司令部所在地ハ双方ノ總司令部タルヘシ其所在地ノ

變更ニ關シテハ双方互ニ通報スヘシ

千九百五年十月三十日(十七日)於四平街停車場

福

島

兩少將記名調印

オラノフスキ

附屬書第四號

所有營口洋關所徵稅項現歸日本國正金銀行收存應俟屆撤兵時交中國地方官查收至於營

口常關所徵稅項以及各地方捐款原係充作地方公共各事之用亦俟屆撤兵時將收支單開交

中國地方官

附屬書第五號
東省鐵路合同祇載開出礦苗另議辦法並無准俄人在鐵路附近三十里內開採煤礦明文嗣經
外務部光緒二十七年奏明以附近鐵路三十里爲限並聲明三十里以外無論何人開採該公司
不得與聞

附屬書第六號
日本國全權大臣續加條款擬允擬改如左

第一款應允照列

第二款

改如下

日本國政府允在東省鐵路合同期限內如在南滿洲即遼河以東各地方修造鐵路等事預先向
中國政府商准以期維持鐵路利益

第三款

改如下

中國允由旅順至烟台海底電綫在借地期限內作爲中日暫行合辦日本專管旅順之一端中國
專管烟台之一端彼此各收報費無庸割撥其在南滿洲沿鐵路各電綫照舊存留但祇可傳遞鐵
路關涉各事不准收有費之商報所有中國在庚子以前原有各官商電綫產業日本政府一律交

還中國接管中國並得以隨時擴充電綫及郵政利權

第四款

應刪去以及護路兵隊所需一切物件一句

第五款

應改如下

中國政府爲居住旅大借用界內華民民食起見允滿洲地方各雜糧得運入借用界內以資接濟
惟不得運出外洋

第六款

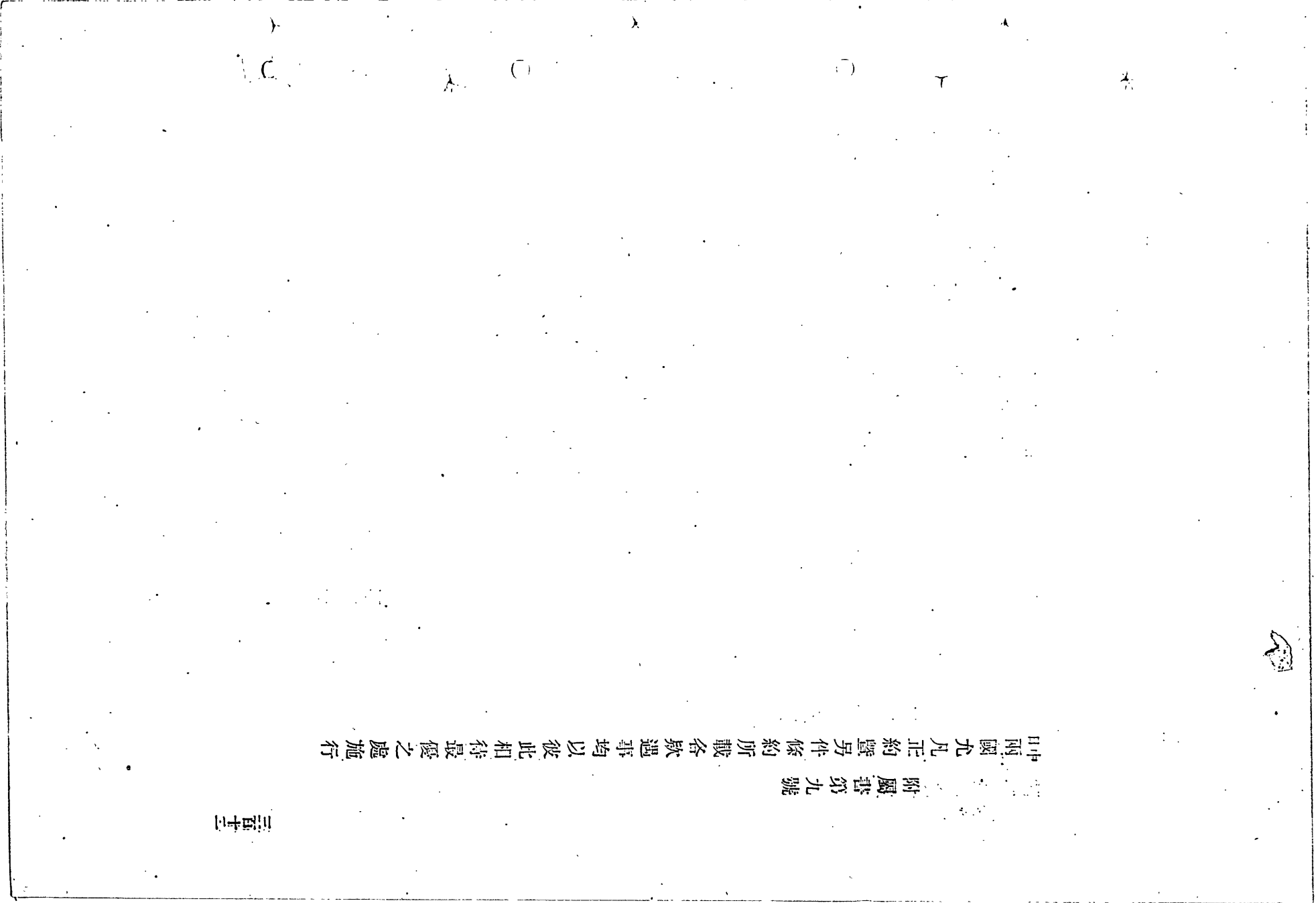
中國兩國政府互允於正約及另件條約商定各事認真施行

附屬書第七號

中國政府爲維持東省鐵路起見於未收回該路之前允於該路附近不築並行幹路

附屬書第八號

中國政府爲維持東省鐵路利益起見於未收回該路之前允於該路附近不築並行幹路及有損
該路利益之支路



中國允凡正約暨另件條約所載各款遇事均以彼此相待最優之處施行
附屬書第九號

三百七

B-0039

